

口 繫船岸壁、棧橋、浮棧橋及物揚場

名稱

經營者ノ氏名又ハ名稱

延長

水深

構造

一平方米上ノ耐重力

附屬起重機其ノ他ノ揚貨裝置

照明裝置ノ有無

用地内ノ上屋及倉庫

經營者ノ氏名又ハ名稱

構造別棟數

延坪數

ハ 上屋及倉庫

經營者ノ氏名又ハ名稱

構造別棟數

延坪數

ニ 貯炭場及貯木場

所在ノ場所

經營者ノ氏名又ハ名稱

岸壁構造ヲ有スルモノニシテ本船ヲ横附スルモノハ之ヲ繫船岸壁トシ、舢舨、帆船、漁船其ノ他ノ小船ヲ横附スルモノハ之ヲ物揚場トシテ記載スベシ

繫船岸壁及物揚場ニ付テハ長サ、棧橋及浮棧橋ニ付テハ長サ及幅ヲ記載スベシ

期望平均干潮面ニ依リ記載スベシ

主要用材(函塊、方塊、石材、鐵矢板、鐵柱、「コンクリート」柱、木材等)ヲ記載スベシ

繫船岸壁、棧橋及浮棧橋ニ付記載スベシ種類、能力及箇數ヲ記載スベシ

用地トハ繫船岸壁、棧橋、浮棧橋及物揚場ニ接続スル土地ニシテ之ト一體ヲ爲シテ水陸聯絡ノ用ヲ爲スノ設備ヲ施設シタル區域ヲ謂フ

鐵製、木造、「コンクリート」造等ニ區別スベシ

水陸輸送ノ聯絡ニ利用シ得ベキ地域内ノ上屋及倉庫ニ付記載スベシ

鐵製、木造、「コンクリート」造等ニ區別スベシ

- 坪數
最大貯藏量
- ホ 危險物置場
所在ノ場所
經營者ノ氏名又ハ名稱
坪數
建物ノ構造及延坪數
- ヘ 野積場其ノ他ノ空地
所在ノ場所
所有者又ハ借受人ノ氏名又ハ名稱
坪數
- ト 石炭及石油積込設備並ニ給水及給米設備
所在ノ場所
經營者ノ氏名又ハ名稱
種類別箇數又ハ隻數
能力
- チ 繫船浮標
經營者ノ氏名又ハ名稱
箇數
- リ 乾船渠、浮船渠及船架
經營者ノ氏名又ハ名稱
入渠又ハ上架シ得ル最大商船ノ總噸數
- ヌ 臨港鐵道

構造ハ製鐵、木造、「コンクリート」造ノ如ク記載スベシ

船舶ノ場合ハ休繫場ノ位置ヲ記載スベシ

種類ハ高架道式石炭積込設備、唧筒式石油積込設備、唧筒附給水船ノ如ク記載スベシ
十時間ノ最大能力ヲ記載スベシ
總噸數二萬噸級船用、一萬噸級船用、三千噸級船用等ニ區別スベシ

延長、鐵道幹線ヨリ臨港驛其ノ他ノ主要地點ニ至ル線

ル 河川及運河

名稱

位置

延長

幅

水深

橋梁下ノ間隙

小船船溜

所在ノ場所

經營者ノ氏名又ハ名稱

水深

坪數

通信、信號及通船ノ機關

名稱

所在ノ場所

水門又ハ開門

荷役能力

港内人夫

員數

一人一日ノ平均賃銀

一人一日ノ荷役能力

路幹程及臨港鐵道ヨリ主要埠頭ニ至ル距離ヲ記載スベシ
港灣ニ接続シ之ト一體ヲ爲シテ海陸聯絡ノ用ヲ爲ス部分ニ付記載スベシ

上幅ニ依リ記載スベシ

期望平均干潮面ニ依リ記載スベシ

期望平均滿潮面ヨリ橋梁迄ノ距離ヲ記載スベシ

期望平均干潮面ニ依リ記載スベシ

横濱中央郵便局、横濱税關港務部無線電信取扱所、横濱船舶信託所、横濱市通船營業事務所ノ如ク記載スベシ

長サ(開門ニ限ル)、幅及水深ヲ記載スベシ

沖仲仕、濱仲仕、陸仲仕等ニ區別スベシ

主要貨物ニ依リ計算スベシ計算ニ用フル貨物ノ品名ヲ

〔日本〕

第六輯 文書 統計 國勢調査 第五章 資源調査

附記スベシ

各別ニ記載スベシ

- ロ 船隻
 - 總噸數
 - 最大、最小及平均總噸數
- ハ 曳船
 - 總噸數
 - 機關ノ種類及馬力
- 八 回漕業者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 九 船用品販賣業者
 - 住所及氏名又ハ名稱
- 一〇 主要販賣品目
- イ 海事關係官公署
 - 名稱
 - 所在ノ場所
- 一 港灣全圖

一二 繫船岸壁及其ノ隣接地域平面略圖、棧橋及其ノ隣接地域平面略圖、浮棧橋及其ノ隣接地域平面略圖、並ニ物揚場及其ノ隣接地域平面略圖

内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)朔望平均干潮面ニ依ル水深(二)繫船岸壁、棧橋、浮棧橋、物揚場、上屋、倉庫、起重機、防波堤、小船船溜其ノ他ノ重要ナル設備(三)海事關係官公署(四)鐵道、軌道、道路、河川及運河トノ聯絡狀況(五)附近一帶ノ地勢ヲ記載シ作製スベシ

内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)繫船岸壁、棧橋、浮棧橋又ハ物揚場ノ延長(二)朔望平均干潮面ニ依ル水深(三)上屋、倉庫、見張所、鐵道、軌道、揚貨裝置、繫船設備其ノ他ノ重要ナル設備ヲ記載シ作製スベシ

<p>一三 繫船岸壁断面略圖及棧橋断面略圖 一四 港則</p>	<p>内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)構造ノ概略(二)湖望平均満潮面及干潮面ニ依ル水深ヲ記載シ作製スベシ</p>	<p>十二月 翌年十月末日</p>
<p>港灣出入船舶及貨物 一 船舶年出入隻數及登簿噸數 二 船舶ニ依ル貨物年出入額</p>	<p>港灣別ニ記載スベシ 外國貿易ニ從事スル船舶ヲ除ク 外國貿易貨物ヲ除ク</p>	<p>十二月 翌年十月末日</p>
<p>國道、府縣道及自動車専用道路圖</p>	<p>内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)國道及府縣道(鋪裝ノ有無及貨物自動車ノ通過困難ナル箇所ヲ附記スベシ)(二)自動車専用道路ヲ記載シ作製スベシ 第二回以後ノ報告ハ異動報告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ妨グズ</p>	<p>十二月 翌年十月末日</p>
<p>警察 一 警察職員 イ 官職別員數 ロ 兵役關係者數 二 警察官署配置圖 三 警察電話回線圖</p>	<p>道府縣別ニ記載スベシ 第二回以後ノ報告ハ圖面ノ場合ニ於テハ異動報告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ妨グズ 現ニ其ノ職ニ在ル者ニ付記載スベシ 警視、警部、警部補及巡查ニ區別スベシ 歸休兵並ニ豫備兵役、後備兵役及補充兵役ニ在ル者ニ限リ兵役關係者トシ之ヲ陸軍及海軍ニ區別シ陸軍關係者ニ付テハ之ヲ既教育者ト未教育補充兵トニ區別シ既教育者ニ付テハ更ニ之ヲ飛行兵及氣球兵、鐵道兵、電信兵、戰車兵、自動車手(各兵科ニ屬スル者)ノ中自他ニ區別シテ記載スベシ 内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ作製スベシ 右ニ同シ</p>	<p>十二月 翌年六月末日</p>

〔輯八三〕

大蔵省		消防(内閣總理大臣ノ指定スルモノ)			
<p>貿易</p> <p>一 品目別貨物各月輸出入額</p> <p>二 外國貿易船舶國籍別各月開港出入隻數及登簿噸數</p> <p>三 積載船舶國籍別輸出入貨物年開港出入額</p> <p>一 保稅倉庫及保稅工場 保稅倉庫貨物各月出入額及各月末保管額</p> <p>二 保稅工場貨物各月移出額及加工製造品移出額</p> <p>一 月別年生產額</p> <p>二 年輸出入額及移出入額</p> <p>三 各月末保管額</p> <p>四 用途別年消費額</p> <p>其ノ省所屬ノ工場</p>	<p>其ノ省所屬ノ工場</p>	<p>一 消防職員</p> <p>イ 官職別員數</p> <p>ロ 警視廳官制及特設消防署規程ニ依ル職員(消防員ヲ除ク)中兵役關係者數</p> <p>二 消防機關配置圖</p>	<p>第二回以後ノ報告ハ圖面ノ場合ニ於テハ異動報告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ妨ケズ</p> <p>現ニ其ノ職ニ在ル者ニ付記載スベシ</p> <p>警視廳官制及特設消防署規程ニ依ル職員ニ付テハ消防部長、警視、消防司令、消防士、消防機關士及消防防手ニ付、消防組員中常備ノモノニ付テハ組頭、小頭及消防手ニ付區別シテ記載スベシ</p> <p>警察職員兵役關係者ノ例ニ依リ記載スベシ</p> <p>内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)消防署ノ配置(二)自動車仰高ノ配置ヲ記載シ作製スベシ</p>		
		<p>一 品目別貨物各月輸出入額</p> <p>二 外國貿易船舶國籍別各月開港出入隻數及登簿噸數</p> <p>三 積載船舶國籍別輸出入貨物年開港出入額</p>	<p>開港別ニ記載スベシ</p> <p>右ニ同シ</p>	<p>商工省調査報告事項中工場ノ例ニ依リ記載スベシ</p>	<p>十二月末日</p> <p>翌年六月末日</p>
		<p>一 保稅倉庫及保稅工場 保稅倉庫貨物各月出入額及各月末保管額</p> <p>二 保稅工場貨物各月移出額及加工製造品移出額</p>	<p>開港別ニ記載スベシ</p> <p>加工製造品移出額ハ外國積戻、輸入及其ノ他ニ區別スベシ</p>	<p>地方專賣局管轄區域別ニ記載スベシ</p> <p>地方專賣局別ニ記載スベシ</p>	<p>十二月末日</p> <p>翌年五月十五日</p>
		<p>一 月別年生產額</p> <p>二 年輸出入額及移出入額</p> <p>三 各月末保管額</p> <p>四 用途別年消費額</p>	<p>地方專賣局管轄區域別ニ記載スベシ</p> <p>地方專賣局別ニ記載スベシ</p>	<p>商工省調査報告事項中工場ノ例ニ依リ記載スベシ</p>	<p>十二月末日</p> <p>翌年五月十五日</p>

〔輯八三〕

農林省		文部省	海軍省	陸軍省
耕地面積 一 田 二 畑 林野面積 一 山林 二 原野		技能者養成機關(他ノ省所屬ノモノヲ除ク) 一 名稱 二 所在地 三 學校ノ種類 四 學科課程 五 現在教員數 六 現在學生生徒數 七 學生生徒定員數 八 卒業學生生徒數 九 教員ノ資格 一〇 使用航空機ノ種類及數	技能者養成機關(他ノ省所屬ノモノヲ除ク) 一 名稱 二 所在地 三 學校ノ種類 四 學科課程 五 現在教員數 六 現在學生生徒數 七 學生生徒定員數 八 卒業學生生徒數 九 教員ノ資格 一〇 使用航空機ノ種類及數	內閣總理大臣ノ指定スル工場ノ軍需品ノ製造又ハ修理ノ能力 內閣總理大臣ノ指定スル工場ノ軍需品ノ製造又ハ修理ノ能力 內閣總理大臣ノ指定スル工場ノ軍需品ノ製造又ハ修理ノ能力
道府縣別ニ記載スベシ		航空技能者養成機關ニ限り記載スベシ 右ニ同シ	內閣總理大臣ノ指定スル軍需品ニ付記載スベシ 第二回以後ノ報告ハ異動報告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ妨ケズ 內閣總理大臣ノ指定スル軍需品ニ付記載スベシ 第二回以後ノ報告ハ異動報告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ妨ケズ	內閣總理大臣ノ指定スル軍需品ニ付記載スベシ 第二回以後ノ報告ハ異動報告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ妨ケズ
十二月 翌年十月末日		三月一日 十月末日	二月末日 十二月末日	二月末日 十二月末日
調査報告ハ三年ヲ一回ト爲スコトヲ妨ゲズ				

〔輯六四〕

<p>農産</p> <p>一 農家戸數</p> <p>二 内閣總理大臣ノ指定スル農産物ノ年生産額及作付段別</p>	<p>道府縣別ニ記載スベシ</p>	<p>十二月末日</p> <p>翌年十一月末日</p>
<p>三 米麥殘存高</p> <p>イ 米</p> <p>ロ 麥</p>	<p>五月一日</p> <p>七月一日</p> <p>七月末</p> <p>十一月末</p>	<p>五月末</p> <p>七月末</p> <p>七月末</p> <p>十一月末</p>
<p>畜産 軍用ノモノヲ除ク</p> <p>一 内閣總理大臣ノ指定スル家畜ノ性別及年齡別現在數並ニ性別年生産數、斃死數及屠殺數</p> <p>二 内閣總理大臣ノ指定スル畜産物ノ年生産額</p>	<p>道府縣別ニ記載スベシ</p> <p>種牡馬及種牡牛現在數ニ付テハ種類ヲ細別スベシ</p>	<p>十二月末日</p> <p>翌年十月末日</p>
<p>林産</p> <p>一 内閣總理大臣ノ指定スル用材ノ年伐採材積</p> <p>二 内閣總理大臣ノ指定スル林野産物ノ年生産額</p>		<p>十二月末日</p> <p>翌年十月末日</p>
<p>水産</p> <p>一 漁獲高及養殖物收穫高</p> <p>イ 年漁獲高</p>		<p>十二月末日</p> <p>翌年十月末日</p>

		五人未満 工場除	
電力年使用額	原料、材料及燃料（内閣總理大臣ノ指定スルモノ）ノ年使用額	一 職員職務別、性別及兵役關係別數 二 職工又ハ鍛夫性別、年齢別及兵役關係別數 三 其ノ他ノ從業者性別數	一 年生産額 二 生産工場又ハ鍛山數
事業ノ種類別ニ道府縣別又ハ鍛山監督局管轄區域別ニ記載スベシ	事業ノ種類別ニ道府縣別又ハ鍛山監督局管轄區域別ニ記載スベシ	事業ノ種類別ニ道府縣別又ハ鍛山監督局管轄區域別ニ記載スベシ 工場又ハ鍛山ノ業務ニ從事スル者ニ限り記載スベシ 職務別ハ事務職員及技術職員ニ區別スベシ 事務ト技術トヲ兼務スル者ニ付テハ其ノ主タル職務ニ依リ何レカ一方ノミニ記載スベシ 兵役關係別ハ兵役關係者（歸休兵並ニ豫備兵役、後備兵役及補充兵役ニ在ル者ニ限ル）ト然ラザル者トニ區別シ前者ハ更ニ陸軍及海軍ニ區別スベシ 年齢別ハ十六歳未満、十六歳以上五十歳未満及五十歳以上ニ區別スベシ 兵役關係別ハ職員ノ例ニ依リ區別スベシ	道府縣別又ハ鍛山監督局管轄區域別ニ記載スベシ
十二月末日	十二月末日	十二月末日	十二月末日
翌年十月末	翌年十月末	翌年十月末	翌年十月末

【會本】

別記ノ工場及鑛山	
一 名稱及所在ノ場所	第二回以後ノ報告ハ圖面ノ場合ニ於テハ異動報告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ妨グズ
二 工業主又ハ鑛業權者ノ住所及氏名又ハ名稱	鑛山ニ付テハ其ノ主タル探掘事務所所在ノ場所ヲ記載スベシ
三 生産	數量及價額ヲ以テ表示スベシ但シ數量ヲ以テ表示スルコト能ハザルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
イ 事業ノ種類	生産品目ハ詳細ニ區別スベシ例ヘバ藥品ノ濃度、機械ノ型式又ハ寸度、船舶ノ構材又ハ噸數等ヲ異ニスルモノアル場合ニ於テハ之ヲ別品目トシテ記載スベシ
ロ 事業開始年月	加工、修理又ハ賃仕事ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ附記スベシ
ハ 品目別年生産額	次ノ如ク記載スベシ
ニ 年作業總日數	自 月 日 時間
ホ 一日ノ作業時間	自 月 日 時間
四 敷地及建物	工場ニ付記載スベシ
イ 敷地總坪數	作業場ハ作業ノ種類ニ依リ、倉庫ハ用途ニ依リ區別スベシ
ロ 作業場及倉庫ノ建物ノ構造別棟數及坪數	構造別ハ構材(鐵製、木造、「コンクリート」造等)及層數ニ依リ區別シ坪數ハ建坪及延坪ヲ記載スベシ

【備考】

十二月 翌年五月十五日
 第九號ニ掲グルノ性質上他ノ期日ニ依ルチ適當ト認メラルルモノノニ付テハ其ノ期日ニ依リテ左ノ事項ニ付テハ六月末 八月末

五 鑛區

イ 鑛區數

ロ 鑛區總坪數

ハ 鑛區ノ所在地

六 設備及機械

イ 作業用設備及機械種類別及寸度又ハ能力別數

ロ 原動機

電動機實馬力別數

其ノ他ノ原動機實馬力別數

ハ 其ノ他ノ設備及機械

七 運輸聯絡

イ 聯絡スル停車場、幹線道路、河川、運河又ハ港灣ノ名稱

ロ 停車場又ハ港灣ニ至ル距離

ハ 聯絡ニ使用スル機關又ハ設備ノ種類

八 原料、材料、燃料及電力

イ 原料及材料種類別年使用額

ロ 燃料種類別年使用額

ハ 電力年使用額

作業場別ニ取纏ムベシ

種類別及寸度又ハ能力別ハ設備又ハ機械ノ性能ヲ正確ニ表示シ得ル程度ニ細別スベシ

作業場別ニ取纏メ主要ナル用途ヲ附記スベシ

直流及交流ニ區別スベシ

蒸氣機關、蒸氣「タービン」、瓦斯機關、石油機關、「タービン」水車、「メルトン」水車等ニ區別シテ記載スベシ

構内運搬設備等ニ付記載スベシ

常時生産品、原料、材料、燃料等ノ搬出搬入ヲ行フ鐵道、軌道、幹線道路、河川、運河及港灣トノ運輸聯絡ニ付記載スベシ

引込線、船舶、自動車、「コンベヤー」、架空索道ノ如ク記載スベシ

詳細ニ區別シテ記載スベシ

燈火用電力使用額ノ判明スルモノニ付テハ之ヲ附記スベシ

- 九 從業者
 - イ 職員職務別及性別數
 - ロ 職工又ハ鑛夫性別及年齡別數
 - ハ 其ノ他ノ從業者性別數
 - ニ 職員、職工及鑛夫中兵役關係者數
 - ホ 職工又ハ鑛夫一日ノ労働時間
 - ヘ 職工又ハ鑛夫一人一日ノ平均實收賃金
 - 一〇 工場平面圖
 - 一一 工場ノ異動
 - イ 名稱及所在ノ場所
 - ロ 事業ノ種類
 - ハ 異動ノ事實
 - ニ 異動發生ノ時期

別記

一 百人以上ノ職工ヲ使用シ左ニ掲グル事業ヲ行フ工場
 イ 絹絲、絹絲、麻絲又ハ毛絲ノ紡績

汽力、瓦斯力、水力ノ如ク原動力ノ種類ヲ附記スベシ
 供給者名ヲ附記スベシ
 工場又ハ鑛山ノ業務ニ從事スル者ニ限リ記載スベシ
 職務別ハ事務職員及技術職員ニ區別スベシ
 事務ト技術トヲ兼務スル者ニ付テハ其ノ主タル職務ニ依リ何レカ一方ノミニ記載スベシ
 技能ニ依リ區別シテ記載スベシ
 年齡別ハ十六歲未滿、十六歲以上五十歲未滿及五十歲以上ニ區別スベシ
 内務省調査報告事項中警察職員兵役關係者ノ例ニ依リ事務職員、技術職員及職工又ハ鑛夫ニ區別シテ記載スベシ
 内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ作製スベシ
 開業、休業及廢業シタルトキニ限ル

- ロ 廣幅綿織物、綿帆布又ハ綿袋織物ノ製造
- ハ 「セメント」又ハ「セメント」製品ノ製造
- ニ 人造絹絲ノ製造
- ホ 紙又ハ「バルブ」ノ製造
- 二 五十人以上ノ職工ヲ使用シ左ニ掲グル事業ヲ行フ工場
- イ 麻織物、麻交織物、毛織物又ハ毛交織物ノ製造
- ロ 絲布ノ浸染
- ハ 莫大小又ハ莫大小製品ノ製造
- ニ 絶縁電線ノ製造
- ホ 鑛業用、農業用又ハ土木用機械器具ノ製造
- ヘ 鐵道軌道用車輛ノ製造又ハ修理
- ト 航空機ノ製造
- チ 製氷機、冷蔵庫、暖房器又ハ金庫ノ製造
- リ 耐酸用、耐熱用又ハ絶縁用陶磁器ノ製造
- ヌ 硝子又ハ硝子製品ノ製造
- ル 珐瑯鐵器ノ製造
- チ 松脂、樟腦、薄荷腦、「テレビン」油、樟腦油又ハ薄荷油ノ製造
- リ 護膜製品又ハ其ノ類似品ノ製造
- カ 「セルロイド」又ハ「セルロイド」製品ノ製造
- コ 人造肥料ノ製造
- メ 「リノリウム」ノ製造
- レ 紙器ノ製造
- ソ 糊ノ製造
- ツ 穀粉ノ製造
- ネ 砂糖ノ製造

- 三 三十人以上ノ職工ヲ使用シ左ニ掲グル事業ヲ行フ工場
- イ 「フェルト」又ハ「フェルト」製品ノ製造
- ロ 機械裁縫
- ハ 鑛業法第二條第一項ニ規定スル鑛物ノ製鍊
- ニ 金屬ノ塊、錠、條、竿、線、板、筒、管其ノ他ノ金屬素材ノ製造
- ホ 梁材又ハ鐵道軌道用、船舶用、建築用若ハ支柱支架用金屬材料ノ製造
- ヘ 合金ノ製造
- ト 「ボールト」、「ナット」、鉄、釘、針ノ類ノ製造
- チ 鋤、鋤鎖又ハ撥條ノ製造
- リ 金屬製ノ罐、樽、筒ノ類ノ製造
- ヌ 金屬製又ハ纖維製綱索ノ製造
- ル 鍍金又ハ金屬ノ被覆
- ヲ 汽機、原動機、瓦斯用機械、噴筒、送風機ノ類又ハ其ノ附屬機械器具ノ製造
- ワ 電氣機械器具ノ製造
- カ 通信用、信號用又ハ照明用機械器具ノ製造
- キ 起重機、「コンベヤー」其ノ他ノ運搬用機械器具ノ製造
- ク 試驗用、検査用、計測用又ハ學術用機械器具ノ製造
- ケ 印刷用又ハ製圖用機械器具ノ製造
- コ 寫真用機械器具又ハ材料ノ製造
- ク 兵器ノ製造
- ネ 自動車、自動自轉車又ハ自轉車ノ製造又ハ修理
- ナ 船舶ノ製造又ハ修理
- ラ 機械、車輛又ハ船舶ノ附屬品又ハ部分品ノ製造
- ム 動力傳導用車輪、車軸、車軸接手、金屬製軸承又ハ鋼球ノ製造
- ウ 船舶用、建築用若ハ家具用金具、「バルブ」又ハ「コック」ノ製造

〔日本〕

- キ 耐酸用又ハ耐火用煉瓦ノ製造
- ノ 炭化石灰ノ製造
- オ 炭素製品ノ製造
- ク 坩堝ノ製造
- ヤ 研磨材料又ハ研磨用品ノ製造
- マ 「コークス」、「コールタール」又ハ「ピッチ」ノ製造
- ケ 工業藥品ノ製造
- フ 合成染料ノ製造
- コ 石鹼ノ製造
- エ 火藥、爆藥又ハ火工品ノ製造
- テ 礦物油、動植物油脂、脂肪酸、蠟又ハ加工油ノ製造
- ア 製材又ハ木製品ノ製造
- サ 「コルク」製品又ハ其ノ類似品ノ製造
- キ 皮革又ハ皮革製品ノ製造
- ユ 雲母製品又ハ石棉製品ノ製造
- メ 亞鉛版、石版、銅版又ハ寫眞版ヲ以テスル印刷精製
- ミ 精製
- シ 麵粉、「ビスケット」又ハ水飴ノ製造
- エ 罐詰、罐詰又ハ樽詰食料品ノ製造
- ヒ 乾製、鹽製又ハ燻製食料品ノ製造
- 四 十五人以上ノ職工ヲ使用シ左ニ掲グル事業ヲ行フ工場
- イ 金屬工用、木工用、紡織用其ノ他ノ製造加工用機械器具ノ製造
- ロ 醫療用又ハ獸醫用機械器具又ハ材料ノ製造
- ハ 潜水用具、毒瓦斯防禦用具、消火器又ハ噴霧器ノ製造
- ニ 「レンズ」、「プリズム」、顯微鏡、雙眼鏡ノ類ノ製造

選信省	船 船 (軍用 ノモノ ヲ除ク)	<p>汽船名簿</p> <p>一 船名</p> <p>二 所有者ノ氏名又ハ名稱</p> <p>三 船籍港</p> <p>四 製造年月</p> <p>五 總噸數</p> <p>六 用途</p> <p>七 速力</p> <p>八 船體</p> <p>九 機械</p> <p>一〇 設備</p> <p>一一 積載力</p> <p>一二 燃料</p>	十二月 末日	翌年十 月末日
		<p>總噸數五百噸以上ノ汽船ニ付記載スベシ</p> <p>構造、種類、尺度等ニ付記載スベシ</p> <p>主汽機、主機等ニ付記載スベシ</p> <p>無線電信機、端艇、石炭庫等ニ付記載スベシ</p>		
		<p>ホ 兵器若ハ航空機ノ附屬品若ハ部分品又ハ氣球ノ製造</p> <p>ハ 醫藥品ノ製造</p> <p>ト 塗料又ハ顏料ノ製造</p> <p>チ 酒精又ハ蒸餾酒ノ製造</p> <p>リ 瓦斯ノ製造</p> <p>五 五人以上ノ職工ヲ使用シ左ニ掲グル事業ヲ行フ工場</p> <p>イ 踏鐵又ハ踏釘ノ製造</p> <p>ロ 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造</p> <p>六 五百人以上ノ鐵夫ヲ使用シ石炭ノ採掘事業ヲ行フ鑛山</p> <p>七 二百人以上ノ鐵夫ヲ使用シ銅鑛、鉛鑛、亞鉛鑛、鐵鑛又ハ硫化鐵鑛ノ採掘事業ヲ行フ鑛山</p> <p>八 五十人以上ノ鐵夫ヲ使用シ錫鑛、滿俺鑛、石油又ハ硫黃ノ採掘事業ヲ行フ鑛山</p>		

〔白紙〕

船員	燃料種類別年使用額	汽船	
		甲 總噸數五百噸以上ノ汽船	乙 總噸數五百噸以下ノ汽船
一 船員手帖受有者年齡別數		一 船名	總噸數二十噸以上ノ汽船製造セラレタルトキ又ハ日本船舶ト爲リタルトキ
二 海技免狀受有者種類別數		二 所有者及借受人ノ住所及氏名又ハ名稱	ハ其ノ都度
三 船舶乘組員職務別數		三 船籍港	丙ニ付テハ異動ノ都度
		四 船舶番號及信號符字	
		五 噸數	
		イ 總噸數	
		ロ 登簿噸數	
		ハ 排水噸數	
		六 速力	
		イ 最速速力	
		ロ 航海速力	
		七 資格	
		八 航路定限	
		九 製造ノ時及場所	
		イ 進水年月日	
		ロ 主汽罐製造年月日	
十二月末日	十二月末日	十二月末日	十二月末日
翌年十月末日	翌年十月末日	翌年四月十五日	翌年四月十五日

〔注〕

- ハ 主機製造年月日
- ニ 製造所ノ名稱及所在地
- 船體
- 主汽鐘
- 主機
- 一〇 最近定期検査終了年月日
- 一一 現有航行期間
- 一二 最近出帆シタル年月日
- 一三 使用航路
- 一四 用途
- 一五 船體
- イ 材料
- ロ 構造種類
- ハ 尺度
- ニ 吃水
- ホ 乾舷
- ヘ 空荷ニテ航行スル爲積込ヲ要スル脚荷ノ重量
- ト 船體種類
- チ 甲板ノ層數
- リ 支水隔壁ノ數
- ヌ 單底二重底ノ別
- ル 船首形
- チ 船尾形
- ワ 塗色

- カ 煙突ノ數及塗色
- キ 橋ノ材料、數及高さ
- 一六 機械
- イ 主汽罐
 - 種類及數
 - 汽壓制限
 - 標準狀態ニ於ケル水容量
- ロ 副汽罐
 - 種類及數
 - 汽壓制限
 - 標準狀態ニ於ケル水容量
- ハ 重油焚燃器ヲ有スル汽罐ノ數及重油焚燃器ノ種類
- ニ 主機
 - 種類及數
 - 最速力ニ於ケル馬力
- ホ 推進器
 - 材料
 - 直徑
 - 數
- ヘ 發電機
 - 前進回轉方向
 - 電壓
 - 容量
 - 數

用途	電動機 容量	用途 數	チ 製氷機ノ種類及力量	リ 冷蔵用冷却機ノ種類及力量	× 操舵機ノ數	手動	ル 汽動又ハ電動 揚筒機ノ數	手動	ナ 汽動又ハ電動 蒸化器及蒸餾器	汽罐補給清水専用トシテ一晝夜蒸 化量	飲用水専用トシテ一晝夜蒸餾量	特殊用唧筒	油船ノ給油唧筒ノ一時間ノ供給 量	救助用唧筒ノ一時間ノ排水量	カ 航海速力ニテ一晝夜航行スル場合ニ 於ケル燃料其ノ他ノ消費高	石炭	重油

一七 設備
 イ 無線電信機ノ方式及力量
 ロ 白熱燈ノ數
 ハ 探照燈ノ數
 ニ 旅客室及豫備船員室
 室數
 床數
 「ソーフア」數
 旅客定員
 ホ 公室
 名稱
 長サ
 幅
 容積
 「ソーフア」數
 ヘ 病室
 長サ
 幅
 容積
 床數
 ト 浴室ノ數
 チ 便所ノ數

- ㉞ 端艇ノ數及容積
- 發動機附救命艇
- 救命艇
- 普通機艇
- 普通端艇
- 傳馬
- ㉟ 端艇鈎ノ組數
- 救命具ノ數
- 救命筏
- 救命浮器
- 救命胴衣
- ㊱ 舷梯ノ數及幅
- 炊米具
- 種類及數
- 一回ニ炊キ得ル總量
- 一回ノ炊米ニ要スル時間
- ㊲ 冷蔵庫ノ容積
- 石炭庫ノ容積
- 燃料油庫ノ容積
- 二重底及水艙
- ㊳ 名稱
- 容量
- 常用目的
- 必要ニ應ジ他ノ目的ニ供シ得ベキ裝置ノ有無

一八 積載力

イ 載貨容積

ロ 載貨重量

ハ 揚貨装置

揚貨機ノ種類、力量及數
動臂ノ長サ、力量及數

ニ 上甲板暴露部

甲板ノ材料

艙口ノ數

甲板面積

搭載シ得ル特殊艀舟ノ數

ホ 各甲板上船艀

舷窓ノ數

載貨門ノ數

通風管ノ數

排水孔ノ數

甲板ノ材料

直上甲板ノ材料

甲板間ノ内高

上下艀口縁材間ノ内高

直上甲板ノ艀口ノ數並ニ其ノ長サ
及幅

容積

甲板面積

上甲板上船艀、第二甲板上船艀、第三甲板上船艀等ニ
區別シ記載スベシ

ハ	船體部諸管配置圖
ロ	船體容積圖
イ	船體一般配置圖
一九	船圖
ト	船梁上ニ假甲板ヲ張り得ル場合ニ記載スベキ事項 船梁上面及直上甲板梁下端間ノ高さ甲板面積
チ	底面積
ツ	各船内ノ直上甲板下最小内高 直上甲板ノ船口ノ數竝ニ其ノ長サ及幅
テ	通風管ノ數
ト	出入口ノ數竝ニ其ノ高サ及幅

汽船新ニ製造セラレ又ハ日本船舶ト爲リタルトキニ限
内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)積裝(二)滿載吃水線
ノ位置(三)各甲板及船内ニ於ケル室、艙、庫等ノ配置(四)
各甲板ニ於ケル諸設備ノ配置竝ニ動臂ノ力量及最大使
用範圍等ヲ記載シ作製スベシ

内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)各甲板及船内ニ於
ケル室、艙、庫等ノ容積及配置(二)空荷吃水及滿載吃水
間ノ各吃水ニ於ケル載貨重量、排水重量、單位吃水差
浮沈重量及單位傾斜力率ヲ示ス尺度竝ニ滿載吃水線
標示等ヲ記載シ作製スベシ

内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ水管、油管、汽管、
氣管及附屬唧筒ノ配置等ヲ記載シ作製スベシ

- ニ 機關一般配置圖
 - ホ 電線裝置圖
 - ヘ 通信裝置圖
 - ト 通風裝置圖
- 乙 總噸數二十噸以上五百噸未満ノ汽船
- 一 船名
 - 二 所有者及借受人ノ住所及氏名又ハ名稱
 - 三 船籍港
 - 四 船舶番號及信號符字
 - 五 噸數
 - イ 總噸數
 - ロ 登簿噸數
 - 六 速力
 - イ 最強速力
 - ロ 航海速力
 - 七 資格
 - 八 航路定限
 - 九 製造ノ時及場所
 - イ 進水年月日
 - ロ 主汽機製造年月日
 - ハ 主機製造年月日

内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ機關室内諸機關及附屬諸管ノ配置等ヲ記載シ作製スベシ

内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ發電機、電動機、配電盤、白熱電燈、電線等ノ裝置ヲ記載シ作製スベシ

内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ傳令機、回轉通信機、回轉方向指示機、舵角指示機、傳聲管、電話等ノ裝置ヲ記載シ作製スベシ

内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ電動及汽動通風裝置竝ニ自然通風管ノ裝置ヲ記載シ作製スベシ

- ニ 製造所ノ名稱及所在地
- 船體
- 主汽罐
- 主機
- 一〇 最近定期検査終了年月日
- 一一 現有航行期間
- 一二 最近出渠又ハ下架シタル年月日
- 一三 使用航路
- 一四 用途
- 一五 船體
- イ 材料
- ロ 構造種類
- ハ 尺度
- ニ 吃水
- ホ 甲板ノ層數
- ヘ 支水隔壁ノ數
- ト 橋ノ高サ
- 一六 機械
- イ 主汽罐
- 種類及數
- 汽壓制限
- 主機
- 種類及數
- 最強速力ニ於ケル馬力
- ハ 推進器

- ニ 發電機 種類 數
- ニ 發電機 電壓 容量
- ホ 操舵機ノ數 手動 汽動又ハ電動
- ハ 航海速力ニテ一晝夜航行スル場合ニ於ケル燃料其ノ他ノ消費高 石炭 重油 輕油 汽罐補給清水
- 一七 設備 無線電信機ノ方式及力量
- イ 旅客定員
- ロ 端艇ノ數及容積 救命艇 普通端艇 傳馬
- ニ 石炭庫ノ容量
- ホ 燃料油庫ノ容量

- へ 清水貯量
 - 飲用水
 - 汽罐補給清水
 - 一八 積載力
 - イ 載貨容積
 - ロ 載貨重量
 - ハ 揚貨装置
 - 揚貨機ノ種類、力量及數
 - 動臂ノ長サ、力量及數
 - ニ 船艙容積
 - 一九 船體一般配置圖
- 丙 汽船ノ異動
- 一 船名及船舶番號
 - 二 異動ノ事實
 - 三 異動發生ノ時期
 - 四 船圖

總噸數百噸以上ノ汽船新ニ製造セラレタルトキ又ハ日本船舶ト爲リタルトキニ限リ内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)艙裝(二)滿載吃水線ノ位置(三)各甲板及艙内ニ於ケル室、艙、庫等ノ配置(四)各甲板ニ於ケル諸設備ノ配置並ニ動臂ノ力量及最大使用範圍等ヲ記載シ作製スベシ

總噸數二十噸以上ノ汽船ニ付甲及乙ニ掲グル事項ニ著シキ變更ヲ生ジタルトキ及沈没、解撤又ハ國籍喪失シタルトキニ限ル

總噸數百噸以上ノ汽船(總噸數五百噸未満ノ汽船ニシテ本令施行前ニ製造セラレ又ハ日本船舶ト爲リタルモノヲ除ク)ニ付甲及乙ニ掲グル船舶ニ記載スル事項ニ著シキ變更ヲ生ジタルトキニ限リ變更ノ狀況ヲ知ルニ

<p>丁 總噸數二十噸以上ノ汽船乗組員</p> <p>一 職務別數</p> <p>二 兵役關係者數</p>	<p>必要ナル事項ヲ記載シタル圖面ヲ作製スベシ但シ本令施行前ニ製造セラレ又ハ日本船舶下爲リタルモノニ付電線裝置圖、通信裝置圖又ハ通風裝置圖ニ記載スル事項ニ著シキ變更ヲ生ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ平水航路ヲ航路定限トスル汽船ノ乗組員ヲ除キ記載スベシ</p> <p>甲板部、機關部及事務部ニ區別シ更ニ職務ニ依リ細別シテ記載スベシ</p> <p>內務省調査報告事項中警務職員兵役關係者ノ例ニ依リ職務ニ依リ區別シテ記載スベシ</p>
<p>運航狀況</p> <p>甲 總噸數千噸以上ノ汽船ノ配船狀況</p> <p>一 船名及總噸數</p> <p>二 所有者及借受人又ハ期間備船者ノ住所及氏名又ハ名稱</p> <p>三 其ノ月一日正午ニ於ケル位置及狀態</p> <p>四 前三月間ニ於ケル運航狀況</p> <p>乙 內閣總理大臣ノ指定スル汽船ノ運航見込</p> <p>一 船名及總噸數</p> <p>二 所有者及借受人又ハ期間備船者ノ住所及氏名又ハ名稱</p> <p>三 翌月一日ニ於ケル見込位置及狀態</p>	<p>港名、經緯度又ハ位置ヲ推定シ得ベキ其ノ他ノ事項及航行、碇泊、繫船、入渠等ノ狀態ヲ記載スベシ</p> <p>前月末日ヨリ起算シ前三月間ノ航跡ヲ判明セシムベキ航路(起點地、終點地及主要寄港地名並ニ其ノ入港及出港ノ月日)及繫船、入渠等運航障害ノ有無及其ノ期間ニ付記載スベシ</p> <p>甲第三號ニ準シ記載スベシ</p>
<p>一月末</p> <p>四月末</p> <p>七月末</p> <p>十月末</p> <p>各月末</p>	

<p>四 翌月中ノ運航及運航障害ノ見込</p> <p>定期航路</p> <p>一 經營者ノ住所及氏名又ハ名稱</p> <p>二 起點地、終點地及寄港地名</p> <p>三 使用船數及使用船總噸數</p> <p>四 航海回數</p>	<p>確定航路(起點地、終點地及主要寄港地名)及其ノ航路 及見込期間ヲ記載スベシ</p> <p>總噸數二十噸以上ノ船舶ヲ使用スルモノニ限リ記載ス ベシ</p>	<p>十月末 日</p> <p>十二月 末日</p>
<p>造船所(軍用ノモノヲ除ク)</p> <p>一 名稱及所在ノ場所</p> <p>二 工場主ノ住所及氏名又ハ名稱</p> <p>三 船舶ノ製造及修理設備</p> <p>イ 船渠</p> <p>開渠年月日</p> <p>船渠ノ種類及構造</p> <p>船渠ノ長サ、幅及深サ</p> <p>附屬噸位ノ種類及能力</p> <p>入渠シ得ル船舶ノ最大ノ長サ、幅及吃水</p> <p>ロ 船臺</p> <p>竣工年月日</p> <p>船臺ノ長サ、幅、傾斜、構造及耐重力</p> <p>附屬起重機ノ種類及能力</p> <p>製造シ得ル船舶ノ最大ノ長サ、幅及高サ</p>	<p>總噸數百噸以上ノ汽船ノ製造、入渠又ハ上架設備ヲ有 スルモノニ付記載スベシ</p>	<p>十二月 末日</p> <p>翌年五 月十五 日</p>

第六輯 文書 統計 國勢調査 第五章 資源調査

<p>ハ 船架 船臺ニ準ズ ニ 艦裝及修理用繫船岸壁及棧橋 長サ及水深 附屬設備 四 總噸數百噸以上ノ汽船ノ建造高 イ 年末現在工事中ノ隻數及總噸數 ロ 年内進水隻數及總噸數 ハ 年内竣工隻數及總噸數</p>	<p>水先免狀受有者水先區別數</p>	<p>航路標識</p>	<p>電氣供給事業 (軍用ノモノヲ除ク) 發電所及變電所名簿 一 名稱 二 所在ノ場所 三 事業者ノ氏名又ハ名稱 四 出力 五 主要ナル設備及機械</p>
		<p>燈臺、船舶通航信號、潮流信號、立標、浮標等ニ付名稱、位置其ノ他ノ重要ナル事項ヲ記載スベシ</p>	<p>内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)發電所(名稱及出力ヲ附記スベシ)(二)變電所(名稱及出力ヲ附記スベシ)(三)開閉所(送電線ノ最大電壓二萬「ヴォルト」以上ノ送電線ニ付回線數、最大電壓及周波數ヲ附記スベシ)ヲ記載シ事業者ノ氏名又ハ名稱ヲ附記シテ作製スベシ</p>
<p>五月末日 十月末日</p>	<p>五月末日 十月末日</p>	<p>十二月末日 翌年十月末日</p>	<p>十二月末日 翌年十月末日</p>

(日本)

電信電話		有線電信電話		同線能力(内閣總理大臣ノ指定スルモノ)		同線圖	
發電所ニ於ケル燃料種類別年使用額		從業者		選信局管轄區域別ニ記載スベシ		第二回以後ノ報告ハ異動報告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ妨グズ	
一 職員職務別數		二 職工數		三 兵役關係者數		事業者別ニ記載スベシ 發電所、變電所、開閉所及送電線ノ現業ニ従事スル者ニ限リ記載スベシ 職務別ハ事務職員及技術職員ニ區別スベシ 事務ト技術トヲ兼務スル者ニ付テハ其ノ主タル職務ニ依リ何レカ一方ノミニ記載スベシ	
一 同線名		二 接續局所名		三 通信方式		四 負擔標準通數	
五 一日ノ平均取扱通數		内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)局所(二)同線(三)主要通信機器ヲ記載シ作製スベシ		事務職員、技術職員及職工ニ區別シテ記載スベシ		内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)局所(二)同線(三)主要通信機器ヲ記載シ作製スベシ	
					三月末	三月末	十二月末
					六月末	七月末	翌年十月末

〔百兆〕

無線電 信電話 (軍用 ノモノ ヲ除ク)	局所 甲 陸上無線電信局所及陸上無線電 話局所 一 局所名又ハ施設者名 二 裝置場所 三 呼出符號又ハ呼出名稱 四 裝置方式 五 空中線電力 六 使用周波數 イ 持續 ロ 可聴 七 空中線ノ高サ及形狀 八 有線聯絡設備 九 其ノ他ノ設備	有技者	豫備機材在庫數	最大通數ヲ取扱ヒタル日及最小通數ヲ取扱ヒタル日ノ 屬スル月ヲ附記スベシ	三月末 日	六月末 日
		一 職務別數 二 兵役關係者數	電信ノ現業ニ從事スル者ニ限リ選信局別ニ記載スベシ 通信及検査ニ從事スル者並ニ其ノ他ニ區別シテ記載スベシ 内務省調査報告事項中警察職員兵役關係者ノ例ニ依リ 職務ニ依リ區別シテ記載スベシ	電信ノ現業ニ從事スル者ニ限リ選信局別ニ記載スベシ 通信及検査ニ從事スル者並ニ其ノ他ニ區別シテ記載スベシ 内務省調査報告事項中警察職員兵役關係者ノ例ニ依リ 職務ニ依リ區別シテ記載スベシ	三月末 日	六月末 日

方位測定機、寫真電信送受装置等ノ設備アルトキハ之

〔備考〕

- 一〇 取扱業務
- 一一 對手局名
- 一二 所轄通信局名
- 一三 使用開始年月日
- 乙 船舶無線電信局所及船舶無線電話局所
 - 一 船舶名
 - 二 施設者名
 - 三 呼出符號又ハ呼出名稱
 - 四 裝置方式
 - 五 空中線電力
 - 六 使用周波數
 - イ 持續
 - ロ 可聴
 - 七 方位測定機
 - 八 自動警急器
 - 九 補助裝置
 - イ 裝置方式
 - ロ 空中線電力
 - ハ 電源設備
 - 一〇 所轄通信局名及定繫港名
 - 一一 通達距離
 - 一二 就航方面
 - 一三 船舶總噸數

ヲ記載スベシ

海岸局、固定局、航空局、實驗用等ノ別ヲ記載スベシ

船舶無線電信局所ニ限リ記載スベシ
右ニ同シ

蓄電池ノ場合ハ其ノ容量ヲ附記スベシ

〔台本〕

航空機名簿		航空機數		航空機名簿	
一 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱		一 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱		一 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱	
二 堪航證明書番號		二 堪航證明書番號		二 堪航證明書番號	
三 國籍及登錄番號		三 國籍及登錄番號		三 國籍及登錄番號	
四 種類及型式		四 種類及型式		四 種類及型式	
五 發動機		五 發動機		五 發動機	
航空機名簿	航空機數	航空機名簿	航空機數	航空機名簿	航空機數
一 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱	一 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱	一 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱	一 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱	一 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱	一 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
二 堪航證明書番號	二 堪航證明書番號	二 堪航證明書番號	二 堪航證明書番號	二 堪航證明書番號	二 堪航證明書番號
三 國籍及登錄番號	三 國籍及登錄番號	三 國籍及登錄番號	三 國籍及登錄番號	三 國籍及登錄番號	三 國籍及登錄番號
四 種類及型式	四 種類及型式	四 種類及型式	四 種類及型式	四 種類及型式	四 種類及型式
五 發動機	五 發動機	五 發動機	五 發動機	五 發動機	五 發動機
六 種類及型式	六 種類及型式	六 種類及型式	六 種類及型式	六 種類及型式	六 種類及型式
七 發動機	七 發動機	七 發動機	七 發動機	七 發動機	七 發動機
一 施設者名	一 施設者名	一 施設者名	一 施設者名	一 施設者名	一 施設者名
二 機器設置場所	二 機器設置場所	二 機器設置場所	二 機器設置場所	二 機器設置場所	二 機器設置場所
三 呼出符號	三 呼出符號	三 呼出符號	三 呼出符號	三 呼出符號	三 呼出符號
四 空中線電力	四 空中線電力	四 空中線電力	四 空中線電力	四 空中線電力	四 空中線電力
五 使用周波數	五 使用周波數	五 使用周波數	五 使用周波數	五 使用周波數	五 使用周波數
六 放送區域	六 放送區域	六 放送區域	六 放送區域	六 放送區域	六 放送區域
七 放送區域内聴取者數	七 放送區域内聴取者數	七 放送區域内聴取者數	七 放送區域内聴取者數	七 放送區域内聴取者數	七 放送區域内聴取者數
有技者(他ノ省所屬ノ者及私設ノ無線電信電話ニ従事スル者ヲ除ク)	有技者(他ノ省所屬ノ者及私設ノ無線電信電話ニ従事スル者ヲ除ク)	有技者(他ノ省所屬ノ者及私設ノ無線電信電話ニ従事スル者ヲ除ク)	有技者(他ノ省所屬ノ者及私設ノ無線電信電話ニ従事スル者ヲ除ク)	有技者(他ノ省所屬ノ者及私設ノ無線電信電話ニ従事スル者ヲ除ク)	有技者(他ノ省所屬ノ者及私設ノ無線電信電話ニ従事スル者ヲ除ク)
一 有技者數	一 有技者數	一 有技者數	一 有技者數	一 有技者數	一 有技者數
二 兵役關係者數	二 兵役關係者數	二 兵役關係者數	二 兵役關係者數	二 兵役關係者數	二 兵役關係者數
一 船舶ノ種類	一 船舶ノ種類	一 船舶ノ種類	一 船舶ノ種類	一 船舶ノ種類	一 船舶ノ種類
一五 使用開始年月日	一五 使用開始年月日	一五 使用開始年月日	一五 使用開始年月日	一五 使用開始年月日	一五 使用開始年月日
丙 航空機無線電信局所及航空機無線電信局所	丙 航空機無線電信局所及航空機無線電信局所	丙 航空機無線電信局所及航空機無線電信局所	丙 航空機無線電信局所及航空機無線電信局所	丙 航空機無線電信局所及航空機無線電信局所	丙 航空機無線電信局所及航空機無線電信局所
各船舶無線電信局所及船舶無線電信局所ニ準シテ記載スベシ	各船舶無線電信局所及船舶無線電信局所ニ準シテ記載スベシ	各船舶無線電信局所及船舶無線電信局所ニ準シテ記載スベシ	各船舶無線電信局所及船舶無線電信局所ニ準シテ記載スベシ	各船舶無線電信局所及船舶無線電信局所ニ準シテ記載スベシ	各船舶無線電信局所及船舶無線電信局所ニ準シテ記載スベシ
通信ノ現業ニ従事スル者ニ限リ局所別ニ記載スベシ	通信ノ現業ニ従事スル者ニ限リ局所別ニ記載スベシ	通信ノ現業ニ従事スル者ニ限リ局所別ニ記載スベシ	通信ノ現業ニ従事スル者ニ限リ局所別ニ記載スベシ	通信ノ現業ニ従事スル者ニ限リ局所別ニ記載スベシ	通信ノ現業ニ従事スル者ニ限リ局所別ニ記載スベシ
内務省調査報告事項中警察職員兵役關係者ノ例ニ依リ記載スベシ	内務省調査報告事項中警察職員兵役關係者ノ例ニ依リ記載スベシ	内務省調査報告事項中警察職員兵役關係者ノ例ニ依リ記載スベシ	内務省調査報告事項中警察職員兵役關係者ノ例ニ依リ記載スベシ	内務省調査報告事項中警察職員兵役關係者ノ例ニ依リ記載スベシ	内務省調査報告事項中警察職員兵役關係者ノ例ニ依リ記載スベシ
道府縣別ニ記載スベシ	道府縣別ニ記載スベシ	道府縣別ニ記載スベシ	道府縣別ニ記載スベシ	道府縣別ニ記載スベシ	道府縣別ニ記載スベシ
種類、型式、發動機ノ型式及馬力並ニ用途ニ依リ區別シテ記載スベシ	種類、型式、發動機ノ型式及馬力並ニ用途ニ依リ區別シテ記載スベシ	種類、型式、發動機ノ型式及馬力並ニ用途ニ依リ區別シテ記載スベシ	種類、型式、發動機ノ型式及馬力並ニ用途ニ依リ區別シテ記載スベシ	種類、型式、發動機ノ型式及馬力並ニ用途ニ依リ區別シテ記載スベシ	種類、型式、發動機ノ型式及馬力並ニ用途ニ依リ區別シテ記載スベシ
型式、馬力及筒數ヲ記載スベシ	型式、馬力及筒數ヲ記載スベシ	型式、馬力及筒數ヲ記載スベシ	型式、馬力及筒數ヲ記載スベシ	型式、馬力及筒數ヲ記載スベシ	型式、馬力及筒數ヲ記載スベシ
三月末	三月末	三月末	三月末	三月末	三月末
六月末	六月末	六月末	六月末	六月末	六月末
十二月末	十二月末	十二月末	十二月末	十二月末	十二月末
翌年一月末	翌年一月末	翌年一月末	翌年一月末	翌年一月末	翌年一月末
各月末	各月末	各月末	各月末	各月末	各月末
翌月十五日	翌月十五日	翌月十五日	翌月十五日	翌月十五日	翌月十五日

六 用途 七 積載量 八 有效期限 九 使用上ノ制限	豫備發動機所有者別、所在地別、型式別及馬力別數	座席數、貨物積載量及油槽ノ容量ヲ記載スベシ	航空設備 一 飛行場 イ 名稱及所在ノ場所 ロ 經營者ノ住所及氏名又ハ名稱 ハ 設置ノ目的 ニ 種類 ホ 設置ノ期間 ヘ 恒風 ト 格納庫	第二回以後ノ報告ハ異動報告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ妨グズ 陸上機用、水上機用又ハ水陸兩機用ノ別ヲ記載スベシ 構造、幅、入口ノ高サ及有效幅竝ニ附屬設備ヲ記載ス
			十二月末日	一月末日
			十一月末日	二月十日
			九月末日	三月十日
			七月末日	四月十日
			五月末日	五月十日
			三月末日	六月十日
			一月末日	七月十日
			十二月末日	八月十日
			十一月末日	九月十日
			十月末日	十月十日
			九月末日	十一月十日
			八月末日	十二月十日
			七月末日	翌年二月末日
			六月末日	
			五月末日	
			四月末日	
			三月末日	
			二月末日	
			一月末日	
			十二月末日	

【日本】

- チ 附屬工場
- リ 通信設備
- × 観測設備
- ル 飛行場夜間著陸又ハ著水設備
- ヲ 其ノ他航空ニ關スル重要設備
- ヲ 飛行場平面圖
- カ 飛行場夜間著陸又ハ著水設備圖
- ヨ 飛行場建物配置圖
- タ 飛行場附近一般圖
- 二 不時著陸場
- 三 通信聯絡ノ狀況
- 四 航空氣象観測系統ノ概要
- 五 航空路照明設備
- イ 航空路標示燈

ベシ
作業ノ種類及程度竝ニ主要設備ヲ記載スベシ

給水設備、給油設備、起重機、滑走臺等ノ設備ノ内容及能力ヲ記載スベシ

内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)飛行場内ノ建設物(二)艇庫、棧橋、起重機等ノ水陸關係設備(三)飛行場ノ境界ノ外方五百米ノ區域内ニ於テ航空ノ障害ト爲ルベキモノヲ記載シ作製スベシ

内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)位置(二)用途(三)種類(能力ヲ附記スベシ)ヲ記載シ作製スベシ

内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)位置(二)用途(三)通信聯絡設備ヲ記載シ作製スベシ

内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)鐵道、軌道、道路、河川、運河及港灣トノ聯絡ノ狀況(二)附近一帯ノ地勢ヲ記載シ作製スベシ

飛行場ニ準シ記載スベシ

航空無線電信電話局所、航空機無線電信電話局所及有線電信電話局所間ノ聯絡ノ狀況ヲ記載スベシ

位置、種類及能力ヲ記載スベシ

鐵道省 國有鐵道

- 一 内閣總理大臣ノ指定スル區間ノ線路容量
 - イ 一列車最大連結實車數
 - ロ 一列車最大牽引換算車數
 - 旅客列車
 - 混合列車
 - 貨物列車
 - ハ 最大列車回數
- ニ 列車運行實數
 - 旅客列車
 - 混合列車
 - 貨物列車
- 三 機關車牽引定數

第二回以後ノ報告ハ圖面、線路容量及機關車牽引定數ノ場合ニ於テハ異動報告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ妨グズ
上リ及下リニ區別シ十五噸積貨車ヲ標準トシテ算定スベシ

當該區間ニ於ケル線路、停車場設備等ノ狀態ニ基キ現行列車以外ニ増加シ得ベキ列車數ヲ急行貨物列車速度又ハ混合列車速度ニヨリ設定シ之ニ現行列車數ヲ加算スベシ
當該線路上チ常時實際ニ運行スル定期及不定期列車數ノ合計ヲ記載スベシ

各線路區間毎ニ機關車型式別及速度種類別ニ記載スベシ
速度ノ種類ハ急行旅客列車、旅客列車、混合列車及貨物列車ニ依リ區別スベシ
客貨車換算輛數ヲ附記スベシ
上リ下リ列車ニ依リ牽引定數ヲ異ニスル場合ニ於テハ其ノ區別ニ依リ記載スベシ
補助機關車ヲ使用スル區間ニ於テハ補助機關車ヲ附セザル場合ノ車數及補助機關車ヲ附スル場合ノ車數ヲ記載スベシ

二九四

十二月	翌年六月
末日	末日
第七號及第十二號	第七號及第十二號
ニ付テハ左ノ期	ニ付テハ左ノ期
日ニ依ル	日ニ依ル
三月末	十月末
日	日
第十一號ニ據テ	第十一號ニ據テ
ル事項ニ付變更	ル事項ニ付變更
ハ其ノ都度	ハ其ノ都度

〔日本〕

- 三 機關車現在數
 - イ 蒸氣機關車
 - ロ 電氣機關車
 - ハ 其ノ他ノ機關車
- 四 客車現在數
- イ 營業用客車
- ロ 電車
- ハ 汽動車
- 五 貨車現在數
 - イ 有蓋貨車
 - ロ 「タンク」貨車
 - ハ 無蓋貨車
- 六 前年度ニ於ケル修繕率
- 七 使用燃料及電力
 - イ 燃料種類別年使用額
 - 蒸氣機關車及汽動車使用額
 - 發電所使用額
 - ロ 電力年使用額
 - 自家發電ニ係ルモノ
 - 他ノ供給ニ係ルモノ
- 八 從業者

鐵道局別ニ型式ニ依リ區別シテ記載スベシ

鐵道局別ニ記載スベシ

「ホギー」車及四輪車ニ區別シ更ニ車種ニ依リ區別シテ記載スベシ

「ホギー」車及四輪車ニ區別シ更ニ車種及荷重噸數ニ依リ區別シテ記載スベシ

客車及貨車ニ區別シテ記載スベシ

總額ニ付運轉用及其ノ他ニ區別シテ記載スベシ

發電所別發電量及他ニ供給シタル電力量ヲ附記スベシ

供給者別ニ記載スベシ

運轉、保線、電力及通信ノ現業ニ従事スル者ニ限リ記載スベシ

厚生省	上水道（内閣總理大臣ノ指定スルモノ） 一 水源、貯水、送水、淨水及配水設備 イ 水源設備 ロ 貯水設備 ハ 送水設備	其ノ省所屬ノ工場 其ノ省所屬ノ技能者養成機關	其ノ省所屬ノ技能者養成機關 交通部調査報告事項中技能者養成機關ノ例ニ依リ記載スベシ	貨車 有蓋貨車 無蓋貨車 四 從業者職務別數 五 燃料及電力年使用額 イ 蒸氣機關車及汽動車燃料使用額 ロ 運轉用電力使用額	荷重噸數別ニ記載スベシ 運轉、保線、電氣及其他ニ區別スベシ	三月末 日十月末
		商工省調査報告事項中工場ノ例ニ依リ記載スベシ	十二月末 日五月末	十二月末 日十月末	十二月末 日十月末	十二月末 日十月末

〔輯八三〕

一 名稱 二 所在ノ場所 三 診療科名 四 病床數 五 專屬醫師數 六 「エックス」線設備ノ有無 細菌學的豫防治療品目別年生產額	醫院(軍用ノモノヲ除ク)	三 上水道圖	二 給水人口 一 淨水設備 ホ 配水設備	濾過能力及實際ノ月別濾過水量ヲ記載スベシ減菌裝置アル場合ニ於テハ其ノ種類ヲ附記スベシ 配水池、配水塔及高架水槽ノ容量並ニ配水幹線ノ配水能力及實際ノ月別配水量ヲ記載スベシ 計畫上ノ給水人口及一人一日ノ最大給水量並ニ實際ノ給水人口及一年ノ給水量ヲ記載スベシ 内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)水源設備(二)貯水設備(三)導水線及送水線(四)淨水設備(五)配水設備(六)配水幹線(制水弁ノ位置ヲ附記スベシ)ヲ記載シ作製スベシ	十二月 末日	翌年 月末日
					「エックス」線設備ヲ有スル場合ニ於テハ其ノ數ヲ附記スベシ 道府縣別ニ記載スベシ	病床十箇以上ヲ有スル病院ニ付記載シ道府縣別ニ取極ムベシ

〔輯八四〕

朝鮮總督府、臺灣總督府、關東軍司令部、南洋廳及總務廳	無料職業介紹所(船業、船員、船所、船除)	
内閣總理大臣ニ於テ別段ノ定メ爲スモノヲ除クノ外各省ニ付規定スル所ニ準ジ調査報告スベシ	一 名稱 二 所在ノ場所 三 經營者ノ氏名又ハ名稱 四 取扱種目 五 取扱數(求職、求人、紹介及就職數) 取扱成績 一 職業別及性別各月求職者數 二 職業別及性別各月求人數 三 職業別及性別各月紹介數 四 職業別及性別各月就職者數	醫療關係者 一 醫師數 二 齒科醫師數 三 藥劑師數 四 看護婦數
	道府縣別ニ記載スベシ	道府縣別ニ記載スベシ
	各月末日 翌月末日	十二月末日 翌年十月末日

(別記様式)

第 號 年月 日交付

資源調査證券

官 職 氏 名

企畫院印

資源調査法摘要

第二條 當該官吏又ハ吏員ハ人的及物的資源ノ
 統制運用計畫ノ設定及遂行ニ必要ナル資源調
 査ノ爲必要ナル場所ニ立入り、檢査ヲ爲シ、
 調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ關係者ニ對シ質問
 ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニハ其ノ證券ヲ携帶
 スベシ

第六條 第二條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員
 ノ職務執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ、調査資
 料ノ提供ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ調査資料ヲ提供
 シ又ハ質問ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ
 五百圓以下ノ罰金ニ處ス

日本標準規格第九十二號B列七番(91mm×198mm)
 中央線ノ所ヨリ二ツ折ト爲ス

第六輯 文書 統計 國勢 調査 第五章 資源調査

【輯一四五】

昭和六年十二月二十九日
内閣告示第六號

資源調査令別表中陸軍省及海軍省ノ部ニ規定スル軍需品ノ製造又ハ修理ノ
能力ノ調査報告擔任廳ハ内地以外ノ各地域ニ付テモ陸軍省及海軍省トス

昭和四年十一月二十日
内閣告示第五號

改正 昭和五年第二號、第五號、六年第二號、七年第一號、八年第一號、一〇年第六號、
 一一年第五號、第六號、一二年第七號、一三年第一號、一五年第一號、第一一號、
 第一二號、一六年第一號、一七年第一四號、一八年第二號

資源調査令別表ノ定ムル所ニ依リ指定スルコト左ノ如シ
 資源調査令別表ニ基ク指定

第一 港灣

北海道 稚内、遠別、苫前、留萌、石狩、小樽、岩内、函館、室蘭、釧路、

厚岸、根室、網走

二 本州

青森、船川、土崎、酒田、新潟、伏木、七尾、敦賀、小濱、舞鶴、
 宮津、境、濱田、下關、宇部、三田尻、室積、廣島、竹原、糸崎、
 尾道、鞆、玉島、日比、宇野、牛窓、飾磨、明石、洲本、神戸、
 大阪、堺、和歌山、串本、鳥羽、四日市、名古屋、清水、二見、
 横濱、東京、小名濱、鹽竈、石巻、釜石、宮古、八戸

三 四國

高松、坂出、丸龜、多度津、詫間、川之江、新居濱、今治、三津
 濱、八幡濱、宇和島、須崎、高知、小松島

四 九州及沖繩縣

門司、小倉、若松、博多、唐津、伊萬里、郷ノ浦、藤本、殿原、
 平戸、長崎、島原、三池、大牟田、三角、本渡、鹿兒島、名瀬、



法制局

法制局軍第四二號
昭和十九年八月廿九日

閣議第六一號

軍需省設置及決戰非常措置要綱ノ閣議決定ノ趣旨ニ依リ資源調査令
中改正ノ要アリ仍而別紙勅令案ヲ具シ茲ニ閣議ヲ請フ

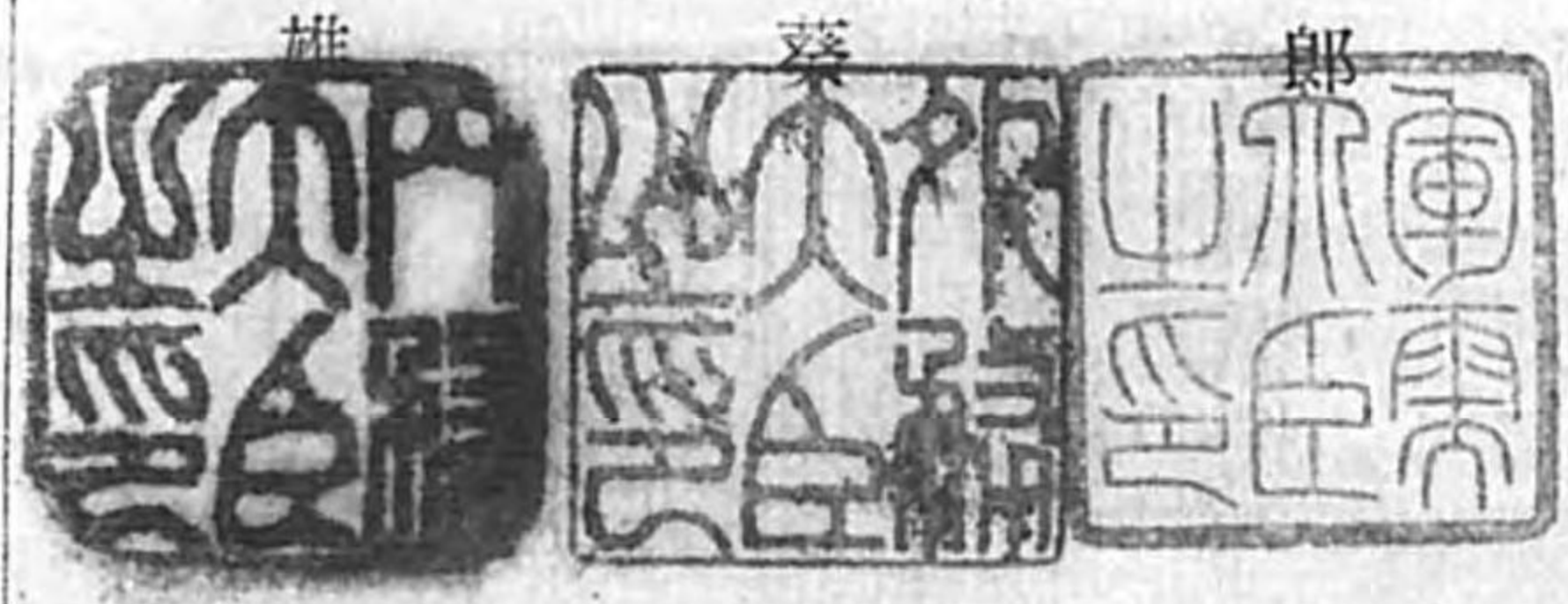
昭和十九年八月二十五日

軍需大臣 藤原 銀次郎

外務大臣 重光

内務大臣 大達 茂

軍中 七二



1/2

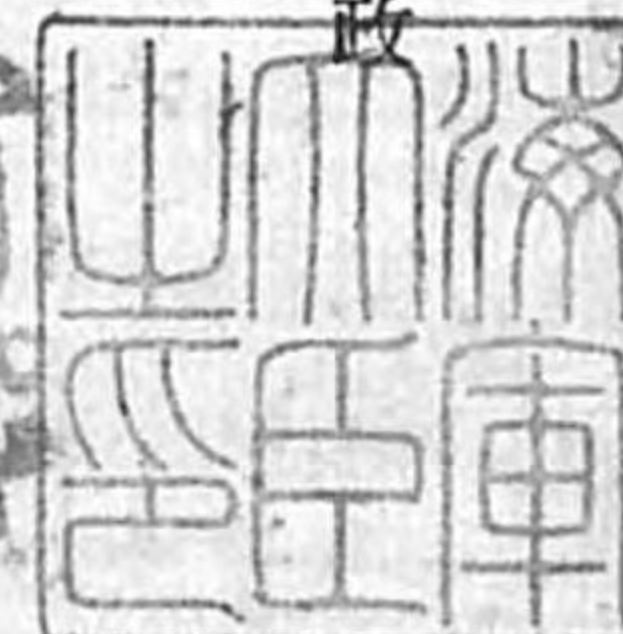
軍需省

大藏大臣 石渡 莊太郎

陸軍大臣 杉山

海軍大臣 米内 光

文部大臣 二宮 治



厚生大臣 廣瀬久

大東亞大臣 重光

農商大臣 島田俊

運輸通信大臣 前田米

忠



葵



雄



藏



官

信

省

内閣總理大臣 小磯 國昭 殿

算 冊 省

勅令第 號

資源調査令中左ノ通改正ス

第一條中「内閣總理大臣」ヲ「軍需大臣」ニ改ム

第二條中「各省大臣」ヲ「内閣總理大臣及各省大臣」ニ、
「内閣總

理大臣」ヲ「軍需大臣」ニ改ム

第三條及第五條乃至第六條中「内閣總理大臣」ヲ「軍需大臣」ニ改

第七條中「企畫院」ヲ「軍需省」ニ改ム
軍需大臣以外、各省大臣ハ之ヲ「軍需大臣」ニ改ム
内閣總理大臣

第八條中「内閣總理大臣」ヲ「軍需大臣」ニ改ム

別表中内務省ノ部港灣（内閣總理大臣ノ指定スルモノ但シ其ノ軍用
ノ設備及船舶ヲ除ク）ノ項及港灣出入船舶及貨物ノ項竝ニ遞信省ノ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

資源調査令

第三條ノ規定ハ當分ノ内其ノ施行ヲ停止ス但シ同條ノ資源調査ニ

シテ其ノ調査期日ガ昭和十八年十二月三十一日以前（二條リ目セテ）報告期日ガ本

令施行ノ日以前ニ係ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
昭和十九年 月 日

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ資源調査令ノ第三條

大日本帝國政府

理 日

六、從來資源調查法ノ施行ノ統轄ハ内閣總理大臣之ヲ行ヒ其ノ事務ハ企畫院ニ於テ處理シ來^ルトコロ昨年十一月行政機構整備ノ結果企畫院ノ廢止、軍需省ノ設置ニ依リ右事務ノ處理ハ軍需省ノ擔當トナリタルヲ以テ本令中ニ「内閣總理大臣」トアルヲ「軍需大臣」ニ改メ形式上ノ整理ヲ行ハントス

一、各省大臣ハ本令ノ別表ニ定ムル處ニ依リ定期ニ内閣總理大臣（改正案ニ依レバ軍需大臣）宛主管事項ニ付報告スベク規定セラレアルモ右ノ行政機構整備ノ結果各省間ニ若干主管事務ノ異動ヲ見タルヲ以テコレニ伴ヒ別表ノ整理ヲ行ハントス

下先般決戰非常措置要綱ノ閣議決定ノ趣旨ニ依リ行政事務ノ可及的簡素化ヲ圖ル爲定期的ニ報告ヲ徵スルコトハ當分ノ内之ヲ停止セントス

本

（注）資源調査法ノ施行ノ統轄ハ内閣總理大臣之ヲ行ヒ其ノ事務ハ企畫院ニ於テ處理シ來ルトコロ昨年十一月行政機構整備ノ結果企畫院ノ廢止、軍需省ノ設置ニ依リ右事務ノ處理ハ軍需省ノ擔當トナリタルヲ以テ本令中ニ「内閣總理大臣」トアルヲ「軍需大臣」ニ改メ形式上ノ整理ヲ行ハントス

（注）西のアルニ

15 205

内閣甲二六四

昭和十九年十一月九日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣



海軍大臣



大東亞大臣



町田國務大臣



内務大臣



司法大臣



農商大臣



兒玉國務大臣



大藏大臣



文部大臣

軍需大臣



緒方國務大臣



陸軍大臣



厚生大臣



運輸通信大臣



別紙内閣總理大臣請議生計費指數資料
實地調查令中改正ノ件

昭和十九年十一月十日
九月十五日

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
閣議決定セラレ可然ト認ム

勅 令 案

口至案示附箋文ノ通

法務局 第九二號

昭和十九年十一月二日

請 議

生計費指數資料實地調查令^中改正公布ノ必要アリ依テ案ヲ具シ閣議ヲ請フ

昭和十九年十一月一日

内閣總理大臣 小磯 國 昭



内閣總理大臣 小磯 國 昭 殿

閣甲 二六四

内 閣

大日本帝國政府

朕生計費指數資料實地調査令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十九年十一月十四日

内閣總理大臣

勅令第六百三十七號

生計費指數資料實地調査令中左ノ通改正ス

第一條中「勞働者」ヲ「勞務者」ニ改ム

第二條第二項中「前項ノ期日」ニ「市町村長ノ指定スル」ヲ

「同項ノ期日、前ノ**近接ノ日**又ハ**適當ナル日**ヲ指スル

第三條第一項第六號ヲ左ノ如ク改ム

六 東京都ノ區ノ存スル區域

第四條中「營業所」ヲ「營業所、事務所等」ニ、「所有又ハ管理」ヲ

「所有若ハ管理スル者又ハ賃貸家屋ニ居住」ニ、「府縣知事」ヲ「地

近接ノ日ニ

大日本帝國政府

方長官」ニ改メ第七號ヲ削リ以下順次繰上ゲ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

十 商工組合其ノ他第一條ノ統計資料ヲ報告スルニ適スル者

第五條第一項中「勞働者」ヲ「勞務者」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ項目ハ内閣總理大臣之ヲ定メ其ノ種類及單位ハ地方長官之ヲ定ム

第六條第一項中「市町村長」ノ下ニ「（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）」ヲ加フ

第七條中「府縣知事」ヲ「地方長官」ニ、「管轄區域」ヲ「管轄區域（東京都長官ニ在リテハ東京都ノ區ノ存スル區域ヲ除ク）」ニ改ム

第八條第一項中「府縣知事」ヲ「地方長官」ニ改メ同條第二項中「市制」ノ「ニ」スル區域並ニ「市長」ノ上ニ「東京都長官又ハ」ヲ加ヘ同條第一項トシテ左ノ一項ヲ加フ

東京都長官ハ内閣總理大臣ノ命ヲ承ケ東京區ノ存スル區域内ノ調査

大日本帝國政府

ノ執行ヲ管掌ス

第九條中「市町村」ノ上ニ「東京都及」ヲ加フ

第十條第一項中「府縣知事ノ推薦ニ依リ内閣ニ於テ」ヲ「地方長官」ニ改ム

第十一條中「第八條第二項ノ場合ニ於テ都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ

東八條第三項ノ場合ニ於テハ區長ヲ含ムモノトス

第十二條中「徽章」ヲ「證票」ニ、「佩用」ヲ「携帯」ニ改ム

第十三條中「府縣知事」ヲ「地方長官」ニ改ム

第十四條ヲ削ル

附則

本令ハ昭和二十年一月、ニ、行フ調査ヨリ之ヲ適用ス

大日本帝國政府

理由

時局ノ推移ニ伴ヒ生計費指數資料實地調査ノ方法等ニ付變更ヲ加フル等與西大アルニ依ル

参照

- 一 本徴章小留針ヲ以テ左助キ裝著スルモノトス
- 二 本徴章小留針調査員各世帯ニ重キ職務ヲ執行スル際之ヲ佩用セシム

● 生計費指數資料實地調査令

昭和十二年五月八日
勅令第百八十三號

(總理大
臣副署)

朕生計費指數資料實地調査令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 勞働者ニ關スル生計費指數作成ノ統計資料蒐集ノ爲本令ニ依リ生計費指數資料實地調査ヲ行フ

第二條 生計費指數資料實地調査ハ昭和十二年七月以降毎月十六日現在ニ依リ之ヲ行フ

前項ノ期日ニ調査ヲ行フコト能ハズ又ハ適當ナラズト認ムル項目ニ付テハ市町村長ノ指定スル近接ノ日ニ調査ヲ行フ

第三條 生計費指數資料實地調査ハ左ノ地域ニ之ヲ行フ

- 一 札幌市
- 二 仙臺市
- 三 山形市
- 四 郡山市
- 五 前橋市
- 六 東京市
- 七 横濱市

- 八 新潟市
 - 九 金澤市
 - 十 松本市
 - 十一 濱松市
 - 十二 名古屋市
 - 十三 京都市
 - 十四 大阪市
 - 十五 神戸市
 - 十六 鳥取市
 - 十七 岡山市
 - 十八 廣島市
 - 十九 徳島市
 - 二十 今治市
 - 二十一 八幡市
 - 二十二 長崎市
 - 二十三 熊本市
 - 二十四 延岡市
- 前項各地域ノ外必要アルトキハ内閣總理大臣ノ指定シタル隣接町村ニ調査ヲ行フ
- 第四條 生計費指數資料實地調査ハ前條ノ地域ニ營業所ヲ有スル左ノ各號ノ一ニ該當スル者及前條ノ地域ニ貸貸家屋ヲ所有又ハ管理スル者ニシテ府縣知事ノ選定シタルモノニ就キ之ヲ行フ
- 一 物品小賣業者

閣甲第二六五號

案起

昭和十九年十一月十三日

裁可

昭和十九年十一月十五日

施行

昭和十九年十一月十八日

公布

內閣總理大臣



內閣書記官

市

內閣書記官

生計費指數資料實地調査令中改正ニ
伴ヒ生計費指數資料實地調査施行規
則中改正ノ件(閣令)左案ヲ以テ公布相
成然ルバシ

閣令案

二〇

別紙ノ通

元禄五年

恩方殿下(年(題心)新珠)元禄五年
 元禄五年(題心)新珠(題心)新珠
 元禄五年(題心)新珠(題心)新珠
 元禄五年(題心)新珠(題心)新珠

元禄五年

元禄五年

元禄五年

元禄五年

一

一

法制局 閣第九二號
昭和十九年十一月二日

局發第四七九號

昭和十九年十月三十一日

內閣統計局長 川島孝彦



內閣總理大臣 小磯國昭 殿

上 申

左案閣令改正公布相成度

閣甲 二六五

昭和十九年十一月一日

內閣官房總務課長

法制局 御中

本件ニ對スル貴局ノ意見
承知致度

內閣

回 答

本件ハ支障無之ト認ム但シ
附券ノ通

昭和十九年十一月十三日

法制局

B5 複写用紙

大日本帝國政府

閣 令 案

閣令第三十六號

生計費指數資料實地調査施行規則中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十八日

內閣總理大臣

第一條中「市町村長」ノ下ニ「（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）」ヲ加フ

第二條中「竝ニ其ノ種類及單位」ヲ削ル

第三條中「別表第二號ノ定ムル所ニ依ル」ヲ「內閣總理大臣之ヲ定ム」ニ改ム

第四條中「營業所」ヲ「營業所、事務所等」ニ改ム

第六條 生計費指數資料調査員ハ價格報告者ニ就キ各項目ノ價格ヲ問

ヒ其ノ報告ニ基キ生計費指數資料實地調査票用紙ニ記入スベシ

第八條中「調査期日ニ」ヲ削リ「項目ニ付テハ」ノ下ニ「第二項ノ場

大 日 本 帝 國 政 府

合ヲ除クノ外」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

項目中前月ノ十七日ヨリ其月ノ十六日迄ニ物品出廻ラザル爲生計費指數資料實地調査令第二條ノ規定ニ依リ調査ヲ行フコト能ハザル場合ニ於テハ生計費指數資料調査員ハ生計費指數資料實地調査票用紙ニ斜線ヲ引クベシ

第九條中「第三號」ヲ「第二號」ニ改ム

別表ヲ左ノ如ク改ム

第一號

一 飲食料費

一 米麥類

項 目

一 飯米

二 小麥粉

三 食パン

四 干饅飴

大日本帝國政府

二 魚介

三 肉

四 牛乳及鷄卵

五 澱粉

六 鱈

七 鯖

八 蝶

九 貝

一〇 烏賊

一一 身欠練

一二 干鱈

一三 煮干

一四 鹽鮭

一五 牛肉

一六 豚肉

一七 鷄肉

一八 牛乳

大日本帝國政府

五 豆及蔬菜

一九 鶏卵

二〇 大豆

二一 馬鈴薯

二二 甘藷

二三 大根

二四 人蔘

二五 牛蒡

二六 玉葱

二七 葱又ハ胡瓜

二八 甘藍

二九 渡篠草又ハ茄子

六 乾物

三〇 干海苔

三一 昆布

七 豆腐、煮物及漬物類

三二 豆腐

大日本帝國政府

八 調味料

九 酒

一〇 菓子及果物

三三	竹輪
三四	佃煮
三五	澤庵
三六	福神漬
三七	醬油
三八	味噌
三九	砂糖
四〇	食用油
四一	清酒
四二	麥酒
四三	ビスケット
四四	キャラメル
四五	菓子パン
四六	林檎

大日本帝國政府

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五					
飲料	住居費	家賃	住宅修繕	水道	家具及什器	茶	サイダー	家賃	疊替賃	障子紙	板硝子	水道料	食卓	飯茶碗	土瓶	鍋	バケツ	箒	
四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九							

大日本帝國政府

三 光熱費

一六 光熱

四 被服費

一七 衣料

六〇 買物籠

六一 電燈料

六二 ガス

六三 木炭

六四 薪

六五 孔明煉炭

六六 マツチ

六七 銘仙

六八 富士絹

六九 晒

七〇 捺染緋

七一 裏地

大日本帝國政府

一八
身ノ廻リ品

八五	八四	八三	八二	八一	八〇	七九	七八	七七	七六	七五	七四	七三	七二
靴修繕料	下駄	傘	タオル	靴下	足袋	戦闘帽	男子學童服	國民服	毛絲	カッターシャツ	シャツ	綿	ネル

大日本帝國政府

五	其ノ他ノ諸費
一九	保健衛生
八六	布靴
八七	感冒賣藥
八八	胃腸賣藥
八九	脫脂綿
九〇	塵紙
九一	石鹼
九二	白粉
九三	齒磨粉
九四	入浴料
九五	理髮代
九六	電車賃
九七	乘合自動車賃
九八	半紙
二〇	交通
二一	文房具

大日本帝國政府

二二

修養娛樂

一九九	ノート
一〇〇	インキ
一〇一	鉛筆
一〇二	筆
一〇三	新聞購讀料
一〇四	映畫觀覽料
一〇五	玩具

大日本帝國政府

第二號(樣式)

票查調地實料資數指費計生

昭和 年 月 日現在

價格報告者	所在地	都 道 縣	生計費指 數資料調 查員檢印
	調查番號	第 號	

項目番號	項 目	種 類	單 位	價 格
				圓

備 考	
--------	--

內 閣 統 計 局

大日本帝國政府

附則

本令ハ昭和二十年一月、二、三、行フ調査ヨリ之ヲ適用ス

大日本帝國政府

理由

生計費指數資料實地調査令中改正ニ件ヒ閣令改正スルノ必要アルニ依ル

參照

生計費指數資料實地調查施行規則

丁字

法令全書

閣令

●閣令第一號

大正十二年閣令第七號國庫ノ支辨ニ屬スル
恩給中内閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ給
與細則中左ノ通改正ス

昭和十二年五月五日

内閣總理大臣 林 銑十郎

別紙様式第十六號書式中

恩給法 第五十 八條第 一項第 三號ニ 依ル普 通恩給 停止額	普通恩給 六年 分ノ一 月迄	普通恩給 八年 分ノ一 月迄	每期 停止額 (イ)金 (ロ)金 圓 圓 錢 錢
--	-------------------------	-------------------------	---

昭和十二年五月 閣令 第一號 第二號 生計費指數資料實地調査施行規則

恩給法 第五十 八條第 一項第 三號ニ 依ル普 通恩給 停止額 給年額	(イ)自 至 年 年 月 月 停止年額(普通恩給六分ノ一)	(ロ)自 至 年 年 月 月 停止年額(普通恩給八分ノ一)	支給年額 圓 圓 錢 錢
---	--	--	--------------------

ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●閣令第二號

生計費指數資料實地調査施行規則左ノ通定

昭和十二年五月八日

内閣總理大臣 林 銑十郎

生計費指數資料實地調査施行規則
第一條 市町村長ハ生計費指數資料實地調
査令第四條ノ規定ニ依リ選定ヲ受ケタル
者(價格報告者)ニ就キ調査スベキ各項目
ヲ指定スベシ

第二條 生計費指數資料實地調査令第五條
ノ規定ニ依リ調査スベキ項目竝ニ其ノ種
類及單位ハ別表第一號ノ定ムル所ニ依ル
第三條 生計費指數資料實地調査令第三條
ノ地域ニ於テ各項目ニ付調査スベキ價格
報告者ノ數ハ別表第二號ノ定ムル所ニ依
ル
第四條 生計費指數資料調査員ハ家賃ニ付
テハ價格報告者ノ住所ニ就キ、其ノ他ノ
項目ニ付テハ當該價格報告者ノ營業所ニ
就キ調査ヲ行フベシ
第五條 生計費指數資料調査員ハ價格報告
者ニ就キ調査ヲ行フコト能ハザルトキハ
事實上之ヲ代理スル者ニ就キ調査ヲ行フ
ベシ
第六條 生計費指數資料調査員ハ價格報告
者ニ就キ各項目ノ價格ヲ問ヒ其ノ報告ニ
基キ生計費指數資料實地調査票用紙ニ記
入シ之ヲ價格報告者ニ示スベシ價格報告
者ハ當該生計費指數資料實地調査票ノ記
入ニ誤謬ナシト認メタルトキハ之ニ捺印
スベシ
第七條 生計費指數資料調査員ハ調査期日
中ニ前條ノ手續ヲ完結スベシ

昭和十二年五月 閣令 第二號 生計費指數資料實地調査施行規則

第八條 天災事變其ノ他已ムラ得ザル事故ノ爲生計費指數資料實地調査令第二條ノ規定ニ依リ調査期日ニ調査ヲ行フコト能ハザル項目ニ付テハ生計費指數資料調査

員ハ生計費指數資料實地調査票用紙ニ「調査不能」ト記入スベシ
第九條 生計費指數資料實地調査票用紙ハ別表第三號様式ニ依リ其ノ寸法ハ昭和六

年商工省告示第十一號ノ日本標準規格A列六番トス
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別表
第一號

第一號	項目	種類	單位		
一 飲食料費 一 米麥類	一 白米	二等	一庇		
	二 白米	三等	一庇		
	三 白米	四等	一庇		
	四 糯米	田	一庇		
	五 改良麥		一庇		
	六 小麥粉		一庇		
	七 食麵粉	白	一切(半封度) 百瓦		
	八 干饅饅		百瓦		
	九 片栗粉		百瓦		
	一〇 餅	眞饅中	一庇		
	一一 餅	眞饅中	一庇		
	一二 餅	眞饅中	一庇		
	一三 餅	眞饅中	一庇		
	一四 餅	眞饅中	一庇		
	一五 蛤	貝附、中	一庇		
	一六 烏賊	スルメイカ、中	一庇		
二 魚介	一七 鰯節	魚節	百瓦		
	一八 干鰯	改良	一庇		
	一九 干鰯	無頭開	一庇		
	二〇 目刺	鰯	百瓦		
	二一 煮干	中才	百瓦		
	二二 塩鮭	改良洗上	一庇		
	二三 牛肉	並	百瓦		
	二四 豚肉	並	百瓦		
	二五 雞肉	並	百瓦		
	二六 牛乳	全乳	一份		
	二七 鶏卵	鶴ノ子、大玉、二等	一庇		
	二八 大豆	普通、二等	一庇		
	二九 小豆	金時、三等	一庇		
	三〇 隠元豆		一庇		
	三一 馬鈴薯		一庇		
	三二 甘藷		一庇		
三三 里芋		一庇			
三四 大根		一庇			
三五 蕪菁		一庇			
三六 人參		一庇			
三七 牛蒡		一庇			
三八 玉葱		一庇			
三九 葱		一庇			
四〇 甘藍		一庇			
四一 菠薐草	普通	一庇			
三 肉					
	四 牛乳及鶏卵				
		五 豆及蔬菜			

昭和十二年五月 閣令 第二號 生計費指數資料實地調査施行規則

六 乾物	四二 鉄	切鉄	百瓦
	四三 干海苔	板昆布	一帖(十枚)
	四四 昆布		
	四五 干瓢	込	百瓦
	四六 椎茸	木綿漚	百瓦
	四七 豆腐	白角	百瓦
七 豆腐、煮物及漬物類	四八 油揚		百瓦
	四九 蒟蒻		百瓦
	五〇 竹輪	鶯赤	百瓦
	五一 佃煮	鶯赤	百瓦
	五二 煮豆	瓜	百瓦
	五三 澤庵	中玉	百瓦
	五四 奈良漬		百瓦
	五五 梅干		百瓦
	五六 福神漬		百瓦
八 調味料	五七 醤油	赤	一立
	五八 味噌	三益白	一匙
	五九 砂糖	黄双	一匙
	六〇 砂糖	淡色	一立
九 酒	六一 清酒		一本(大瓶)
	六二 麥酒		百瓦
	六三 煎餅		百瓦
一〇 菓子及果物	六四 羊羹	煉	百瓦
	六五 ビスケット	ユレカ	百瓦

一一 飲料	六六 啤酒	ミルク	一箱(二十箇入)
	六七 キヤラメル		百瓦
	六八 大福		百瓦
	六九 餡餅	中玉	一箇
	七〇 林檎	臺灣	一匙
	七一 パナナ	番茶	百瓦
	七二 茶		一本
	七三 サイダー		一本
一二 家賃	七四 家賃	備後	一月分
一三 住宅修繕	七五 畳表	マニラ	一枚
	七六 障子紙	透明(縦一尺三寸四分、横一尺)	一枚
	七七 板硝子	專用栓(口徑十三耗)	十立方米
一四 水道	七八 水道料	栓材、拭漆、折疊(縦二尺、横二尺五寸)	一箇
一五 家具及什器	七九 食卓	磁器、蓋附	一箇
	八〇 飯碗	磁器、蓋附	一箇
	八一 硝子コップ	家庭向、中	一箇
	八二 藥罐	琺瑯、大	一箇
	八三 鍋	アルミニウム、薄板、共蓋、大	一箇
	八四 バケツ	亜鉛メッキ鋼板、桶型、中番	一箇
	八五 帚	長柄、黍、座敷用	一本
三 光熱費	八六 電気	燈用	一キロワット時

品名	品番	単位	備考
被服費	四		
一七 衣料			
八七 ガス	八七	一立方尺	
八八 木炭	八八	一俵(十五疋)	
八九 薪	八九	十疋	
九〇 煉炭	九〇	十疋	
九一 マッチ	九一	一包(十箇入)	
九二 銘仙	九二	一反	模様銘仙、着尺用
九三 紅絹裏地	九三	一反	無地
九四 富士絹	九四	一反	
九五 晒木綿	九五	一反	
九六 縞木綿	九六	一反	
九七 染紬木綿	九七	一反	
九八 ナフトール友禪	九八	一反	
九九 金巾裏地	九九	一反	
一〇〇 綿ネル	一〇〇	一米(廣幅)	
一〇一 綿	一〇一	一米(廣幅)	
一〇二 シヤツ	一〇二	一疋(上下)	
一〇三 ワイシャツ	一〇三	一疋(上下)	
一〇四 劇着	一〇四	一疋(上下)	
一〇五 モスリン	一〇五	一疋(上下)	
一〇六 縞セル	一〇六	一米(廣幅)	
一〇七 毛絲	一〇七	一米(廣幅)	
一〇八 洋服	一〇八	一着(上下)	
一〇九 小兒服	一〇九	一着(三ツ前)	
一八 身ノ廻リ品			
一一一 帽子	一一一	一箇	
一一二 半襟	一一二	一箇	
一一三 足袋	一一三	一掛	
一一四 靴下	一一四	一足	
一一五 タオル	一一五	一枚	
一一六 雨傘	一一六	一本	
一一七 洋傘	一一七	一本	
一一八 下駄	一一八	一足	
一一九 草履	一一九	一足	
一二〇 靴	一二〇	一足	
一二一 靴	一二一	一足	
五 其ノ他ノ諸費			
一九 保健衛生			
一二二 感冒賣藥	一二二	一袋	
一二三 胃腸賣藥	一二三	一袋(小)	
一二四 口中藥	一二四	一袋	
一二五 膏藥	一二五	一袋	
一二六 脱脂綿	一二六	一包(五十瓦入)	
一八 身ノ廻リ品			
一一〇 小兒服	一一〇	一着	
一一一 帽子	一一一	一箇	
一一二 半襟	一一二	一箇	
一一三 足袋	一一三	一掛	
一一四 靴下	一一四	一足	
一一五 タオル	一一五	一枚	
一一六 雨傘	一一六	一本	
一一七 洋傘	一一七	一本	
一一八 下駄	一一八	一足	
一一九 草履	一一九	一足	
一二〇 靴	一二〇	一足	
一二一 靴	一二一	一足	
一八 身ノ廻リ品			
一一一 帽子	一一一	一箇	
一一二 半襟	一一二	一箇	
一一三 足袋	一一三	一掛	
一一四 靴下	一一四	一足	
一一五 タオル	一一五	一枚	
一一六 雨傘	一一六	一本	
一一七 洋傘	一一七	一本	
一一八 下駄	一一八	一足	
一一九 草履	一一九	一足	
一二〇 靴	一二〇	一足	
一二一 靴	一二一	一足	
五 其ノ他ノ諸費			
一九 保健衛生			
一二二 感冒賣藥	一二二	一袋	
一二三 胃腸賣藥	一二三	一袋(小)	
一二四 口中藥	一二四	一袋	
一二五 膏藥	一二五	一袋	
一二六 脱脂綿	一二六	一包(五十瓦入)	

第二號		地 域	家 貨 項 目
延岡市	五〇〇〇	水電料	一
熊本市	五〇〇〇	ガス	一
長崎市	五〇〇〇	電氣	一
八幡市	五〇〇〇	及	一
今治市	五〇〇〇	水道料	一
徳島市	五〇〇〇	電氣	一
廣島市	五〇〇〇	及	一
岡山市	五〇〇〇	水道料	一
鳥取市	五〇〇〇	電氣	一
神戸市	五〇〇〇	及	一
大坂市	五〇〇〇	水道料	一
京都市	五〇〇〇	電氣	一
名古屋市	五〇〇〇	及	一
濱松市	五〇〇〇	水道料	一
松本市	五〇〇〇	電氣	一
金澤市	五〇〇〇	及	一
新潟市	五〇〇〇	水道料	一
横浜市	五〇〇〇	電氣	一
東京市	五〇〇〇	及	一
前橋市	五〇〇〇	水道料	一
郡山市	五〇〇〇	電氣	一
山形市	五〇〇〇	及	一
仙台市	五〇〇〇	水道料	一
札幌市	五〇〇〇	電氣	一
其ノ他	三六六	その他	三六六

二七 廉紙	マニラ	一東(百枚)
二八 石鹼	浴用	一箱
二九 白粉	粉	一箱(中瓶)
三〇 髪油	水油	一箱(中瓶)
三一 ポマード	セルロイド柄	一袋(大)
三二 齒磨粉	刈込	一本
三三 齒刷牙	白キヤラコ、ワイシャツ	一回
三四 入浴料	片道又ハ二區	一回
三五 理髮代	片道又ハ二區	一回
三六 洗濯代	一帖(二十枚)	一回
三七 電車賃	一册(二帖綴)	一回
三八 乗合自動車賃	一把(五十枚)	一回
三九 半紙	一瓶(二オンス入)	一回
四〇 雜記帳	機械濾	一回
四一 封筒	中判、有野	一回
四二 インキ	長型、ハトロン	一回
四三 鉛筆	ブリュウブラック	一回
四四 筆	黒、ゴム附	一回
四五 ベン先	水筆	一回
四六 新聞購讀料	Gペン	一回
四七 活動寫眞觀覽料	普通席	一回
四八 セルロイド玩具	ガラガラ	一回

備考
 一 本表ニ掲グル項目中特ニ其ノ種類ヲ定メザルモノニ付テハ市町村長ニ於テ労働者世帯ノ多量ニ消費シ常時豊富ニ供給セルモノノ種類ヲ選定スルコト
 二 本表ニ掲グル種類ニ該當スルモノナキトキハ市町村長ニ於テ之ニ類似スルモノヲ選定スルコト
 三 洋服及小兒服ノ内夏服、シャツノ内クレープ並ニ帽子ノ内麥稈帽ニ付テハ五月乃至九月ニ限リ、洋服及小兒服ノ内冬服、シャツノ内綿メリヤス並ニ帽子ノ内ウール中折ニ付テハ一月乃至五月及九月乃至十一月ニ限リ之ヲ調査スルコト

生計費指數資料實地調査票

昭和 年 月 日現在

項目番號	項 目	價 格 報 告 者		種 類	單 位	價 格	地 域
		營業所ノ住所又ハ住居在號	氏 名 又ハ商 號				
備考		道府縣	市 郡				番地
			氏 名 又ハ商 號				番地

生計費指數資料調査員捺印

内閣統計局

閣下第三七九號

案起

昭和十九年十一月十三日

裁可
昭和十九年十一月十五日
施行

昭和十九年十一月十八日

公名

内閣總理大臣



内閣書記官長

[Handwritten signature]

内閣書記官

生計費指數資料實地調査施行細則
改正ノ件（内閣訓令）左案ヲ以テ公布
相成然ルベシ

内閣訓令案

別紙ノ通

二一

法制局第九七號
昭和十九年十一月八日

局發第四九一號

昭和十九年十一月七日

內閣統計局長 川島孝彦



內閣總理大臣 小磯國昭殿

上申

左案訓令相成度

閣甲二七九

內閣

B5 タイプライター用紙

昭和十九年十一月八日

內閣官房總務課長

法制局 御中

本件ニ對スル貴局ノ意見承知致度

回答

本件ハ支障無之ト認ム但シ
附箋ノ通

昭和十九年十一月十三日

法制局

大日本帝國政府

訓令案

內閣訓令第六號

生計費指數資料實地調査施行細則左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十八日

內閣總理大臣

生計費指數資料實地調査施行細則

第一章 地方長官

第一條 東京都ノ區ノ存スル區域以外ノ地域ニ在リテハ地方長官ハ市町村長ノ推薦ニ基キ適當ト認ムル者ヲ價格報告者トシテ選定スベシ
東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官ハ適當ト認ムル者ヲ價格報告者トシテ選定スベシ

第二條 東京都ノ區ノ存スル區域以外ノ地域ニ在リテハ地方長官ハ市町村長ヨリ價格報告者ニシテ第十一條ノ要件ヲ缺キ又ハ轉業其ノ他ノ事由ニ依リ價格報告者トシテ不適當ト爲リタルモノアル爲他ノ適

大日本帝國政府

當ト認ムル者ヲ推薦シ來リタルトキハ調査ノ上不適當ト認ムル者ニ對シ其ノ選定ヲ取消スト共ニ他ノ適當ト認ムル者ヲ價格報告者トシテ選定スベシ

東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官ハ價格報告者ニシテ第十一條ノ要件ヲ缺キ又ハ轉業其ノ他ノ事由ニ依リ價格報告者トシテ不適當ト爲リタルモノアリト認メタルトキハ不適當ト認ムル者ニ對シ其ノ選定ヲ取消スト共ニ他ノ適當ト認ムル者ヲ價格報告者トシテ選定スベシ

第三條 地方長官ハ價格報告者トシテ選定シタル者ニ項目ノ順序ニ依リ調査番號ヲ附スベシ

第四條 地方長官ハ價格報告者ヲ選定シタルトキ又ハ其ノ選定ヲ取消シタルトキハ其ノ氏名又ハ商號、營業所、事務所等ノ所在地又ハ住所、調査番號及選定又ハ取消ノ年月日ヲ内閣統計局長ニ報告スベシ
東京都ノ區ノ存スル區域以外ノ地域ニ在リテハ地方長官ハ前項ノ報

大日本帝國政府

告ト共ニ之ヲ市町村長ニ通知スベシ

第五條 地方長官ハ生計費指數資料調査員（以下調査員ト稱ス）ガ疾病其ノ他已ムヲ得ザル事故ノ爲調査事務ニ從事シ難キ旨ノ報告ヲ市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ調査員）ヨリ受ケタルトキハ速ニ他ノ調査員タルニ適當ト認ムル者ヲ任命スベシ

第六條 地方長官ハ調査員ヲ任命シタルトキハ其ノ氏名ヲ告示スベシ
東京都ノ區ノ存スル區域以外ノ地域ニ在リテハ地方長官ハ前項ノ告示ト共ニ之ヲ市町村長ニ通知スベシ

第七條 地方長官ハ内閣統計局長ヨリ生計費指數資料實地調査票（以下調査票ト稱ス）用紙其ノ他ノ印刷物ノ交付ヲ受ケタルトキハ一部分ヲ豫備ノ爲保存シ其ノ他ハ遲滞ナク之ヲ市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ調査員）ニ交付スベシ

第八條 地方長官ハ市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ調査員）ヨリ提出シタル調査票ヲ検査ノ上之ヲ毎月二十五日迄ニ内閣

大日本帝國政府

統計局長ニ送付スベシ

第九條 東京都ノ區ノ存スル區域以外ノ地域ニ在リテハ地方長官ハ市町村長ヨリ第十五條、第二十一條第二項、第二十三條第二項及第二十五條第二項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ内閣統計局長ニ報告スベシ

東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官ハ第十三條、第十四條、第二十條、第二十二條及第二十四條ノ規定ニ依ル處理ヲ終リタルトキハ前項ニ準ジ直ニ其ノ旨ヲ内閣統計局長ニ報告スベシ

第二章 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）

第一節 總則

第十條 生計費指數資料實地調査ニ關スル市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）ノ職務ハ左ノ如シ但シ第一號ハ市町村長ニ限ルモノトス

一 價格報告者ノ推薦

大日本帝國政府

- 二 價格報告者ノ報告スベキ項目ノ指定
 - 三 調査員擔當價格報告者ノ指定
 - 四 生計費指數資料實地調査施行規則（以下規則ト稱ス）別表第一號ニ掲グル項目ノ種類選定
 - 五 規則別表第一號ニ掲グル項目中葱又ハ胡瓜、蒔蘿草又ハ茄子並ニシヤツ及男子學童服ノ夏物又ハ冬物ヲ調査スベキ月ノ指定
 - 六 規則別表第一號ニ掲グル項目ノ調査單位ノ指定
 - 七 調査員及價格報告者ノ指導
 - 八 調査票ノ檢査及提出並ニ項目別價格控簿ノ作成
 - 九 以上ノ附帶事務
- 第二節 價格報告者ノ推薦
- 第十一條 市町村長ハ左ノ要件ヲ具備スル者ニシテ價格報告者タルニ適當ト認ムルモノヲ選擇シ之ヲ地方長官ニ推薦スベシ
- 一 確實ニシテ信用アル者ナルコト

大日本帝國政府

二 長期ノ報告ニ堪ヘ且誠實ニ報告スル者ナルコト
三 成ルベク勞務者ノ居住スル地帯ニ營業所、事務所等又ハ住所ヲ有スル者ナルコト

四 成ルベク勞務者ノ利用スル項目ヲ提供スル者ナルコト

第十二條 價格報告者ニシテ前條ノ要件ヲ缺キ又ハ轉業其ノ他ノ事由ニ依リ價格報告者タルニ不適當ト爲リタルモノアルトキハ市町村長ハ速ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スルト共ニ他ノ適當ト認ムル者ヲ推薦スベシ

第三節 價格報告者ノ報告スベキ項目ノ指定

第十三條 東京都ノ區ノ存スル區域以外ノ地域ニ在リテハ市町村長ハ地方長官ヨリ價格報告者ノ選定ノ通知ヲ受ケタルトキ、東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官ハ價格報告者ノ選定ヲ終ヘタルトキ、ハ直ニ其ノ旨ヲ本人ニ通知ノ上其ノ報告スベキ項目ヲ指定スルト共ニ擔當調査員ノ氏名ヲ通知スベシ

大日本帝國政府

東京都ノ區ノ存スル區域以外ノ地域ニ在リテハ市町村長ハ地方長官ヨリ價格報告者ノ選定ノ取消ノ通知ヲ受ケタルトキ、東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官ハ價格報告者ノ選定ヲ取消シタルトキハ本人及擔當調査員ニ其ノ旨ヲ通知スベシ

第十四條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）ハ價格報告者ニ就キ調査スベキ項目ノ指定ヲ變更シタルトキハ當該價格報告者及擔當調査員ニ其ノ旨ヲ通知スベシ

第十五條 市町村長ハ價格報告者ニ就キ調査スベキ項目ヲ指定シタルトキ又ハ其ノ指定ヲ變更シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スベシ

第四節 調査員擔當價格報告者ノ指定

第十六條 東京都ノ區ノ存スル區域以外ノ地域ニ在リテハ市町村長ハ地方長官ヨリ調査員ノ任命ノ通知ヲ受ケタルトキ、東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官ハ調査員ヲ任命シタルトキハ調査員

大日本帝國政府

ノ擔當スベキ價格報告者ヲ定メ之ヲ本人ニ通知スルト共ニ證票ヲ交付スベシ

第十七條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）ハ調査員ノ擔當價格報告者ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ本人及價格報告者ニ通知スベシ

第十八條 市町村長ハ地方長官ヨリ調査票用紙其ノ他ノ印刷物ノ交付ヲ受ケタルトキハ一部分ヲ豫備ノ爲保存シ其ノ他ハ之ヲ調査員ニ交付スベシ

第十九條 調査員疾病其ノ他已ムヲ得ザル事故ノ爲調査事務ニ從事シ難キ旨ヲ申出デタルトキハ市町村長ハ速ニ之ヲ地方長官ニ報告スベシ

第五節 規則別表第一號ニ掲グル項目ノ種類選定

第二十條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）ハ規則別表第一號ニ掲グル項目ニ付勞務者世帯ノ多量ニ消費シ最モ

大日本帝國政府

廣ク出廻ルベキ種類（規則別表第一號ニ掲グル項目中シマツ及男子學童服ニ付テハ夏物及冬物ノ種類）ヲ選定スベシ
市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）ハ前項ノ規定ニ依リ選定シタル種類ガ適當ナラザルニ至リタルトキハ其ノ種類ヲ變更スベシ

第二十一條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）ハ前條ノ規定ニ依リ選定シタルトキ又ハ、選定ノ變更シタルトキハ之ヲ調査員及價格報告者ニ通知スベシ
市町村長ハ前條ノ規定ニ依リ選定ヲ爲シタルトキ又ハ選定ノ變更ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スベシ

第六節 規則別表第一號ニ掲グル項目中葱又ハ胡瓜、菠薐草又ハ茄子並ニシマツ及男子學童服ノ夏物又ハ冬物ヲ調査スベキ月ノ指定

第二十二條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）ハ規則別表第一號ニ掲グル項目中葱又ハ胡瓜、菠薐草又ハ茄子

大日本帝國政府

並ニシヤツ及男子學童服ノ夏物又ハ冬物ヲ調査スベキ月ヲ指定スベシ

市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）ハ前項ノ規定ニ依リ指定シタル調査スベキ月ガ適當ナラザルニ至リタルトキハ其ノ調査スベキ月ヲ變更スベシ

第二十三條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）ハ前條ノ規定ニ依リ調査スベキ月ヲ指定シタルトキ又ハ變更シタルトキハ之ヲ調査員及價格報告者ニ通知スベシ

市町村長ハ前條ノ規定ニ依リ調査スベキ月ヲ指定シタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スベシ

第七節 規則別表第一號ニ掲グル項目ノ調査單位ノ指定

第二十四條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）ハ規則別表第一號ニ掲グル各項目ニ付其ノ調査單位ヲ指定スベシ

市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）ハ前項

大日本帝國政府

ノ規定ニ依リ指定シタル調査單位ガ適當ナラザルニ至リタルトキハ
其ノ調査單位ヲ變更スベシ

第二十五條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長
官一ハ前條ノ規定ニ依リ調査單位ヲ指定シタルトキ又ハ變更シタル
トキハ之ヲ調査員及價格報告者ニ通知スベシ

市町村長ハ前條ノ規定ニ依リ調査單位ヲ指定シタルトキ又ハ變更シ
タルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スベシ

第八節 調査員及價格報告者ノ指導

第二十六條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長
官一ハ調査員ノ擔當價格報告者ヲ指定シタル後速ニ調査員ノ心得ベ
キ要項ヲ指示スベシ

第二十七條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長
官一ハ必要ト認めタルトキハ調査員ヲ招集シ調査事務ノ打合又ハ協
議ヲ爲サシムベシ

大日本帝國政府

第二十八條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）ハ必要ト認メタルトキハ價格報告者ヲ招集シ價格報告者ノ心得ベキ要項ヲ指示スベシ

第九節 調査票ノ検査及提出並ニ項目別價格控簿ノ作成

第二十九條 調査員ヨリ調査票ヲ提出シタルトキハ市町村長（東京都

區ノ存スル區域ニ出リテハ東京都長官）ハ之ヲ檢査スベシ

トアルハ牛計費指數資料實地調査令（以下稱ス）第八條第三

項ノ場合ニ於テハ區長ヲ含ムモノトス

第三十條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長官）

ハ前條ノ規定ニ依リ検査ヲ終ヘタルトキハ別表第一號様式ノ項目別價格控簿ヲ作成スベシ

第三十一條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長

官）ハ第二十九條ノ

規定ニ依ル検査ノ結果又ハ前條ノ項目別價格控簿作成ノ結果調査票

大日本帝國政府

ノ記入ニ誤謬若ハ脱漏アルコトヲ發見シタルトキ又ハ報告ノ價格ヲ
適當ナラズト認メタルトキハ調査員ヲシテ速ニ再調査ヲ爲サシムル

第三十二條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長

官）ハ前條ノ規定ニ依ル再調査又ハ訂正ノ手續ノ結果項目別價格簿
書控簿ノ記入ニ訂正ヲ要スルモノ生ジタルトキハ之ヲ訂正スベシ

第三十三條 市町村長ハ調査票ノ検査ヲ終リタルトキハ之ヲ項目ノ順
序ニ整理シ毎月二十日迄ニ地方長官ニ提出スベシ

第三十四條 市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都長
官）ハ調査票提出後ト雖モ監督官廳ヨリ其ノ記入事項ニ關シ照會ア
リタルトキハ調査員ニ質シ又ハ調査員ヲシテ實地ニ就キ再調査セシ
メ速ニ答申スベシ

第三章 調査員

第一節 總則